

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)

(単位: 千円)

	2年度 A	元年度 B	増△減(A-B)
予 算 額	1,011,627	930,385	81,242

○	ブルーライン
	グリーンライン
	共通

(単位: 千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
1 3000形車両 重要部・全般検査用材料調達事業	93,216

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において、車両の安全運行確保と性能維持のため、定期交換が必要となる各装置の部品を購入します。

- 1 H27年度～R元年度の購入実績単価及び見積を用いて、各種部品の使用予定数量から予算金額を算出した。
- 2 R2年度予算事業対象期間: R2年度下期(令和2年12月～令和3年3月) ～ R3年度上期(令和3年4月～令和3年12月)
- 3 対象編成数: R2年度下期(令和2年11月～令和3年3月) : ①重要部保全検査 0編成 ②全般保全検査 2編成
③新重要部検査 2編成
R3年度上期(令和3年4月～令和3年12月) : ①重要部保全検査 1編成 ②全般保全検査 5編成
合 計 : ①重要部保全検査 1編成 ②全般保全検査 7編成
③新重要部検査 2編成



定期検査別材料部品費用

項目	検査別材料費(1編成当たり)		
	①重要部保全	②全般保全	③新重要部
台車部品			
空制部品・電動空気圧縮機部品			
制御・一般電気部品			
戸閉装置部品・車体部品			
税抜金額			
税(10%)			
合計金額			

事業費用(10%税込)

項目	単価	数(編成)	金額
①重要部保全検査用材料		1	
②全般保全検査用材料		7	
③新重要部検査用材料		2	
合計金額	—	10	93,216

年度別積算金額(税込)

項目	30年度(8%)	31年度(10%)	R2年度(10%)
①重要部保全検査用材料	52,264	31,976	
②全般保全検査用材料	8,243	63,245	
③新重要部検査用材料	—	2,124	
合計金額	60,507	97,345	93,216



重要部・全般検査 画像1



重要部・全般検査 画像2

(2 前年度から変更・見直した点)

なし

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

横浜市高速鉄道車両実施基準による各部品の使用限度および交換周期による。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(計画)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 吉田(和)	

(単位:千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
2 3000形車両 列車検査・月検査用材料調達事業	40,104

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する列車検査・月検査において、車両の安全運行確保と性能維持のため、定期的に交換が必要となる消耗品や摩耗品を購入します。

項目	積算金額		備考
	金額		
制御・一電部品			蛍光灯、前照灯等
車体・空調部品			ワイパー、継電器等
空制・台車部品			制輪子等
集電・回転部品			集電靴、軸ブラシ等
税抜金額	36,459		
税(10%)	3,645		
合計金額	40,104		



月検査 画像1



月検査 画像2

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(計画)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 吉田(和)	

(単位:千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
3 3000形車両 車輪購入事業	

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において、車両の安全運行確保と性能維持のため使用限度に達した車輪を新品に交換します。

入場車両別 必要車輪必要数

車両形式	編成	必要車両数	数/車両	交換数量
3000R	40	6	8	48
3000N	34	0		0
3000V	61	0		0
3000A	26	5		40
3000S	59	1		8
3000R	41	6		48
	42	6		48
	43	6		48
	44	6		48
合 計				288

<車輪新品径> 860mm
 3000A形出場限度
 M車 800mm
 T車 805mm
 3000N形出場限度
 M車 805mm
 T車 810mm
 3000R形出場限度
 M車 800mm
 T車 800mm
 3000S形出場限度
 M車 810mm
 T車 810mm

購入数 積算

交換数量①	安全在庫②※	在庫数③	購入数(①+②-③)
288	16	52	252

(※安全在庫とは、異常摩耗等の際、急な交換必要時に備えて確保しておく在庫のことです。)

積算金額

項目	数(枚)	単価	小計
車輪購入	252		
	税(10%)		
	合計金額		



台車・車輪 画像

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

横浜市高速鉄道車両実施基準による、各部品の使用限度および交換周期による。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(計画)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 吉田(和)	

(単位:千円)

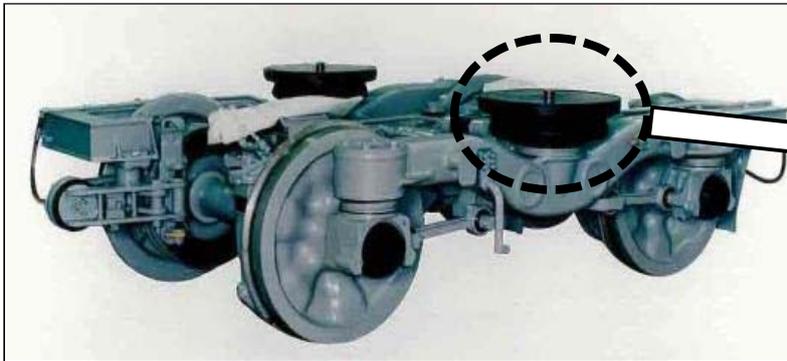
【 事業 内 容 】	2年度予算額
4 3000R形車両 空気バネ組立購入事業	

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において車両の安全運行確保と性能維持のため使用限度に達した台車の部品を購入するものです。
 この台車は、積層ゴム付き空気バネと牽引装置にZリンク式を採用した軽量ボルスタレス台車です。軸箱支持装置には、リンクを採用して構造の簡略化、重量軽減及び乗り心地の向上を図ったモノリンク式を採用しています。
 主軸受は、保守容易な複列円筒コロ軸受を使用しています。基礎ブレーキ装置はディスクブレーキ方式を、車輪は、キシリ音低減を図るためゴム付丸リング防音波打車輪を採用しています。
 空気バネの交換作業は車体と台車を分離しないといけないため、重要部保全・全般保全検査工程に合わせて実施しており、乗り心地の維持のため使用限度に達した空気バネを交換します。

空気バネ交換年度別積算金額 (1編成あたり 24個)

項 目		31年度		R2年度	
車両形式	単価	数	小計	数	小計
3000R		48		74	
税抜金額					
税(10%)					
合計金額					



台車 画像



台車 画像

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

横浜市高速鉄道車両実施基準による各部品の使用限度および交換周期による。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)

(単位:千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
5 3000A形車両牽引装置部品購入事業	

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において車両の安全運行確保と性能維持のため使用限度に達した牽引装置の部品を購入するものです。

牽引装置は、車体支持機構の一部で車体に駆動力、制動力を伝える、車両の乗り心地や安全走行を確保するための重要な装置です。この装置の中で使用している一本リンク用ゴムブッシュとゴム座については、経年でゴムの劣化及びバネ定数が使用限度に達するため交換が必要です。また、この部品を交換するには車体と台車を分離し牽引装置を分解しないと交換できないため、全般・重要部保全検査に合わせて実施します。
平成31年度は、対象期間である平成31年後期(2編成)から平成32年前期(2編成)に入場する4編成分を購入します。令和2年度は、対象期間である令和2年後期から令和3年前期に入場する1編成分を購入します。



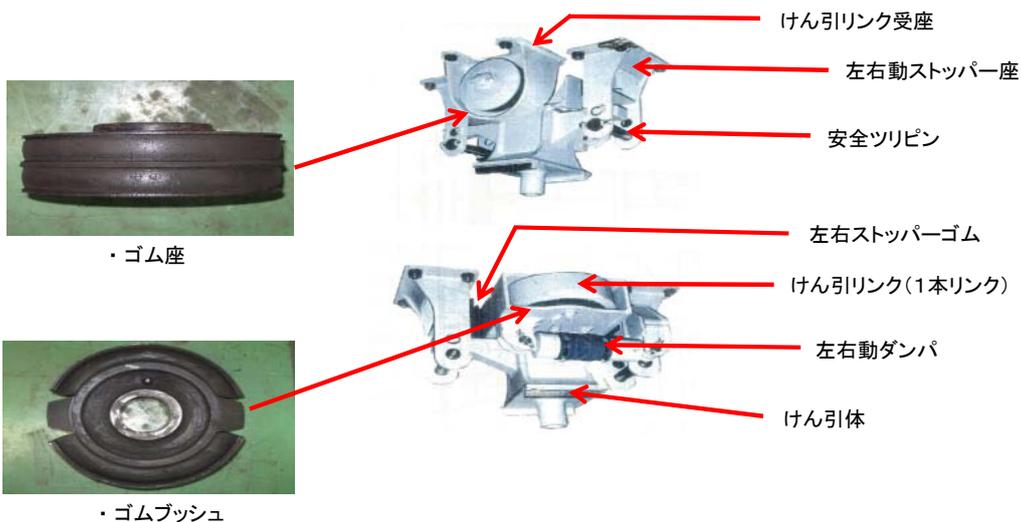
○内訳

1編成当たりの内訳 (単位:千円)

項目	1編成使用数	単価	金額
ゴム座	24		
ゴムブッシュ	12		
小計			

牽引装置部品交換表:3000A形車両(全8編成) (単位:千円)

項目		31年度	R2年度
牽引装置部品	1式/編成	4	1
税抜金額			
税(10%)			
合計			



(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

横浜市高速鉄道車両実施基準による各部品の使用限度および交換周期による。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(計画)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 吉田(和)	

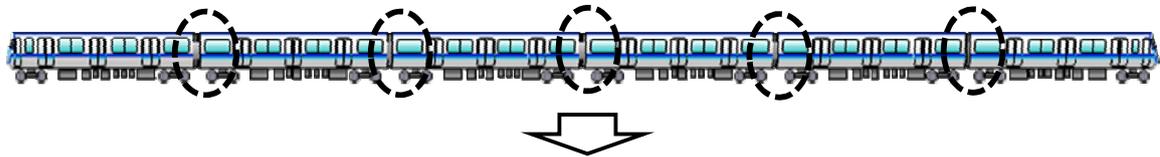
(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
6 3000形車両 連結ホ口購入事業	

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する、重要部保全・全般保全検査において使用限度に達した車体の部品を購入するものです。
 車両間に設置される連結ホ口は、幌枠などの剛体部分と、幌布が幌骨で保持された可とう部分とにより構成されており、快適な乗り心地、車両の安全走行を確保するため重要な装置の部品です。
 経年劣化により補修不可能なため、入場車両の整備時に交換します。

設計金額			
項 目	編成数	単価	税抜金額
A形連結ホ口組立(5個/編成)	1		
R形連結ホ口組立(5個/編成)	5		
水切りパッキン(1式)	1		
税抜価格			
税(10%)			
合計金額			



連結ホ口 画像

(2 前年度から変更・見直した点)

なし

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令及び検査告示(第75条)
 第七十五条 (貫通口及び貫通路の構造)
 旅客車には、旅客が安全かつ円滑に通行することができる貫通口及び貫通路を設けなければならない。ただし、専ら車両一両で運転するものにあつては、この限りでない。施設の状況により非常時に側面から避難できない区間を走行する列車は、その最前部となる車両の前端及び最後部となき避難す。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)

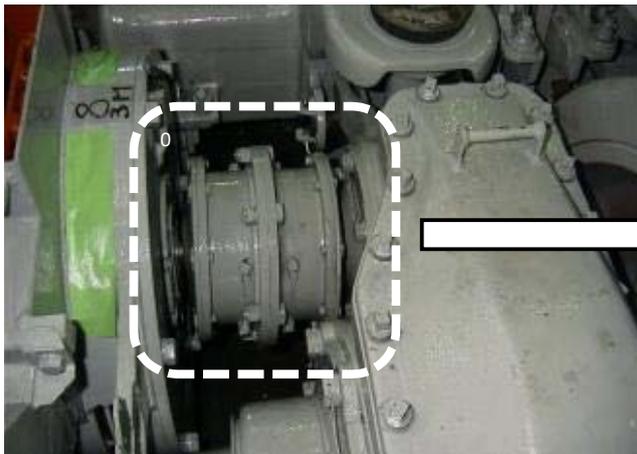
(単位:千円)

【 事業 内 容 】	2年度予算額
7 3000S形車両 駆動装置歯車形軸継手購入事業	

(1 事業目的・内容)

車両の安全運行確保と性能維持を目的として3000S形車両駆動装置歯車形軸継手を購入します。
 駆動装置は主電動機の回転力を車軸に伝達する装置で、主電動機が車軸と平行に台車へ装架され、主電動機の出力軸と歯車装置の入力軸が歯車形軸継手で連結される平行カルダン方式です。台車の軸バネたわみ変化及び輪軸の左右動等により両軸に生じる変位は歯車形軸継手が可動することにより円滑な運転ができる構造になっています。
 歯車形軸継手は製造より29年が経過し、各部の摩耗が著しく、継手の振れ回り振動が大きくなっており、その影響で車体振動が高速域で発生しています。騒音や振動の原因となる現行の歯車形軸継手を改良品(小径・軽量化継手)の歯車形軸継手に交換し、車両の安全運行確保と性能維持に努めます。

項目	年度別積算金額			合計
	30年度	R1年度	R2年度	
施行数(3000S形全8編)	6編成	1編成	1編成	8編成
個数(1編成あたり16個)	96	16	16	128
単価	445	444.6		
税抜金額	42,720	7,114		
税(10%)	3,418			
合計金額	46,138	7,824		



駆動装置 画像



歯車形軸継手 画像

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

横浜市高速鉄道車両実施基準による各部品の使用限度および交換周期による。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)

(単位:千円)

【 事業 内 容 】	2年度予算額
8 3000A/N/R/V形車両 ディスク板購入事業	

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において、車両の安全運行確保と性能維持のため使用限度に達したブレーキ装置のディスク板を新品に交換します。
 摩耗したディスク板は入場毎に削正していますが、次回入場(約4年間)まで使用できるよう出場限度を定めており、限度を割ったディスク板を交換します。

入場車両別 ディスク板必要枚数

車両形式	編成	交換数(枚)
3000R	40	10
3000N	34	0
3000V	61	0
3000A	26	4
3000R	41	6
	42	10
	43	8
	44	2
合 計		40

<ディスク板新品径> 21~24mm

3000A形出場限度
 M車 17.3mm
 T車 13.1mm

3000N・R形出場限度
 M車 16.4mm
 T車 13.1mm

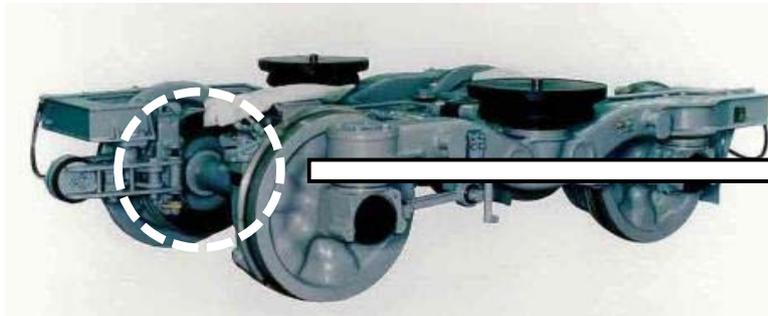
購入枚数 積算

交換数量①	安全在庫②※	在庫数③	購入数(①+②-③)
40	32	38	34

(※安全在庫とは、異常摩耗等の際、急な交換必要時に備えて確保しておく在庫のことです。)

積算金額

項目	数(枚)	単価	小計
ディスク板購入	34		
	税(10%)		
	合計金額		



台車 画像



ディスク板 画像

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

横浜市高速鉄道車両実施基準による各部品の使用限度および交換周期による。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(計画)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 吉田(和)	

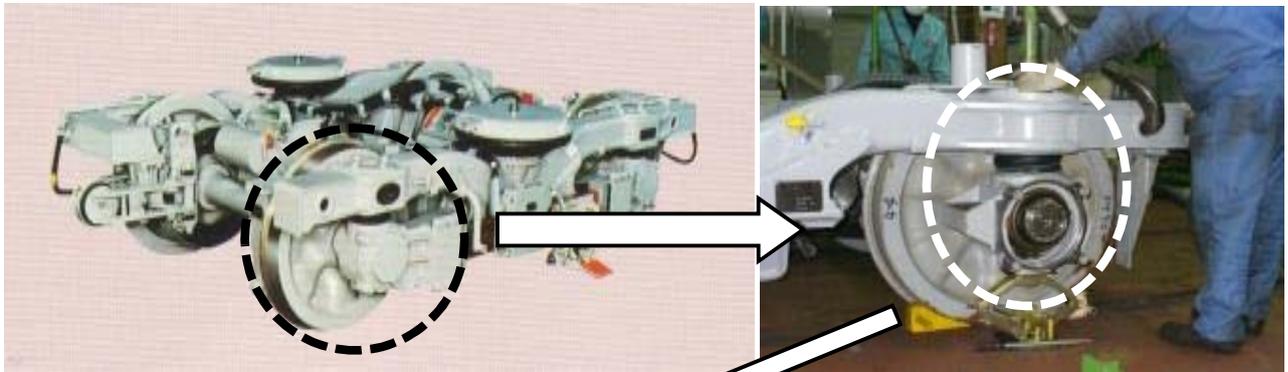
(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
9 3000形車両 軸バネ購入事業	

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において車両の安全運行確保と性能維持のため使用限度に達した軸箱支持装置の部品を購入するものです。
 車両の車軸を支える軸箱支持装置では軸受を内側に保持している軸箱と、その軸箱に付いている軸バネとで車両全体の重量や走行中の車両の揺れによる上下・左右方向の力を支えるもので、車両の安全走行を確保するための重要な装置の部品です。この軸バネは通常の金属バネをゴムで覆ったタイプで防振及び防音の効果があります。
 軸バネの交換作業は台車を分解しないとできないため、全般・重要部保全検査工程に合わせて実施しており、軸バネの使用限度についてはバネ定数、荷重長、亀裂の長さ等で判断していますが、3000R形において使用限度に達し交換するものが多く見込まれるため購入いたします。

積算金額			
項目	個数	単価	小計
3000A形車両軸バネ	40		
3000N・R形車両軸バネ	288		
小計			
税(10%)			
合計金額			



台車 画像

軸箱支持装置 画像



軸バネ 画像



軸バネ 画像

全体的にゴムが劣化し亀裂も発生している。
 バネ定数、荷重長についても使用限度に達している。

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予算科目 款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 38 車両修繕費			担当 所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)
--	--	--	---------------------------------

(単位: 千円)

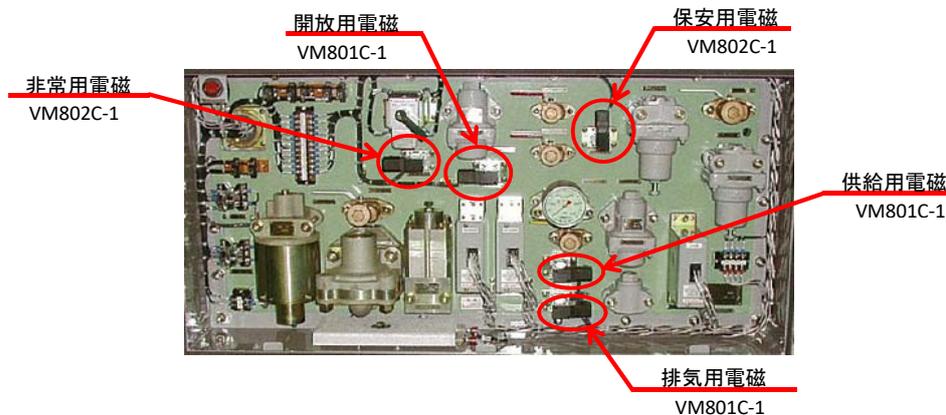
【事業内容】 10 3000R形車両 電磁弁購入事業	2年度予算額
-------------------------------	--------

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において車両の安全運行確保と性能維持のためブレーキ装置で使用している電磁弁を購入するものです。
 電磁弁は、電気部分と空気部分を備え、電磁コイルを励磁して圧縮空気回路を開閉するもので、「ON」形のVM801C-1と「OFF」形のVM802C-1の2種類あり、「ON」形のVM-801C-1は、供給試験・排気試験・開放用として、「OFF」形のVM802C-1は、非常・保安用として、空気ブレーキの制御を行う弁の一部です。

年度別積算金額

項目	年度別積算金額			
	R2年度 6編成	R3年度 7編成	R4年度 1編成	
VM801C-1 ON形	数 (18個/編成)	108	126	18
	単価			
	小計			
VM802C-1 OFF形	数 (12個/編成)	72	84	12
	単価			
	小計			
税抜金額				
税(10%)				
合計金額				



(2 前年度から変更・見直した点)

新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(計画)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 吉田(和)	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
11 3000R形車両 戸閉装置ピストン購入事業	

(1 事業目的・内容)

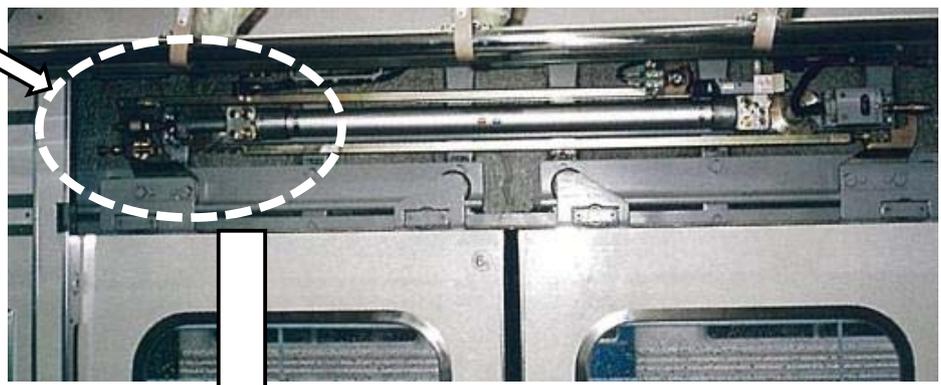
「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において車両の安全運行確保と性能維持のため戸閉装置で使用しているピストンを購入するものです。
 戸閉装置は、駅到着時にお客さまが乗降される際、車両ドアの開閉を行う装置です。
 同装置シリンダ内に装備されている、ドア開閉時に重要なピストンが経年劣化による摩耗や変形が発生しています。このまま使用を続けると車両ドアの開閉が出来なくなる恐れがあるため、戸閉装置のピストンを交換し、お客さまの安全と車両の性能維持に努めます。

年度別積算金額

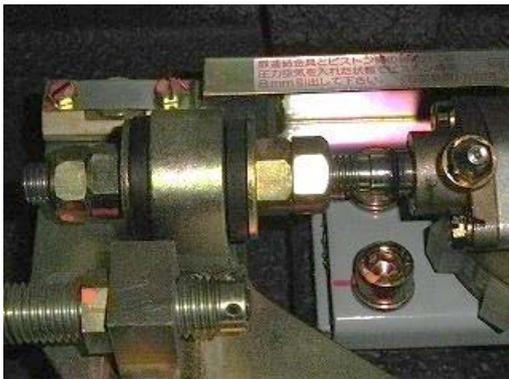
項 目		R2年度	R3年度	R4年度
		6編成	7編成	1編成
ピストン	数 (36個/編成)	216	252	36
	単価			
税抜金額				
税(10%)				
合計金額				



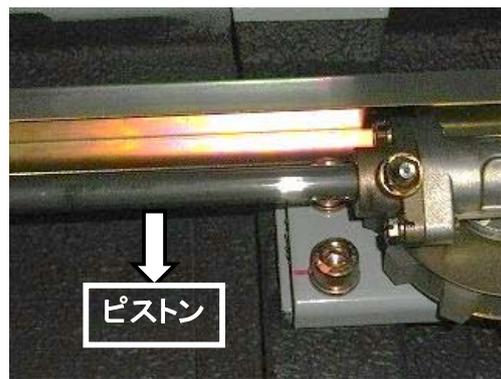
車両ドア 画像



車両ドア点検蓋内部 画像



車両ドア「閉」状態 画像



車両ドア「開」状態 画像

(2 前年度から変更・見直した点)

新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(計画)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 吉田(和)	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
12 3000R形車両 基礎ブレーキ装置戻しバネ購入事業	

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において車両の安全運行確保と性能維持のため経年劣化した戻しバネを交換するために購入するものです。
 基礎ブレーキ装置は、1軸当り1ディスク式(M車)及び2ディスク式(T車)のディスクブレーキ方式で、ブレーキダイヤフラムにエアを挿入し、ブレーキライニングでディスク板を挟み摩擦力を利用して減速させる装置です。戻しバネは、ブレーキを緩めた時にディスク板からブレーキライニングを開放するものです。
 戻しバネの劣化により、ブレーキライニングの開放の低下やバネが折損して軌道内に落下する恐れがあるため、戻しバネを交換し、安全な運行と性能維持に努めます。

年度別積算金額

項 目		R2年度	R3年度	R4年度
		6編成	7編成	1編成
戻しバネ	数 (32個/編成)	192	224	32
	単価			
税抜金額				
税(10%)				
合計金額				



基礎ブレーキ装置 画像



台車 画像



戻しバネ取付け 画像



戻しバネ 画像

(2 前年度から変更・見直した点)

新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

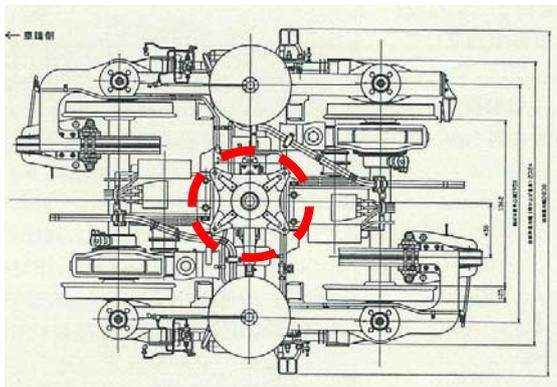
予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	(単位: 千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
13 3000R形車両 牽引装置ブッシュ購入事業	

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において車両の安全運行確保と性能維持のため牽引装置で使用しているブッシュを購入するものです。
 牽引装置は、台車の中心に取付けられ台車枠と車体間の駆動力、制動力を車体に伝達するとともに、台車を車体と水平方向に回転させる装置です。ブッシュは、牽引装置と車体の結合部に取付け、車体をスムーズに回転させる役割を持っています。
 定期検査時の台車入れ(台車に車体を結合)の際に、経年劣化による摩耗でブッシュ抜けが発生しているため、ブッシュを交換して安全な運行と性能維持に努めます。

項 目		R2年度	R3年度	R4年度
		6編成	7編成	1編成
ブッシュ	数 (12個/編成)	72	84	12
	単価			
税抜金額				
税(10%)				
合計金額				



車体側中心ピン 画像



中心ピンを牽引装置へ挿



抜けたブッシュをジャッキを使用し手挿入 作業画像



牽引装置 画像

(2 前年度から変更・見直した点)

新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(計画)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 吉田(和)	

(単位:千円)

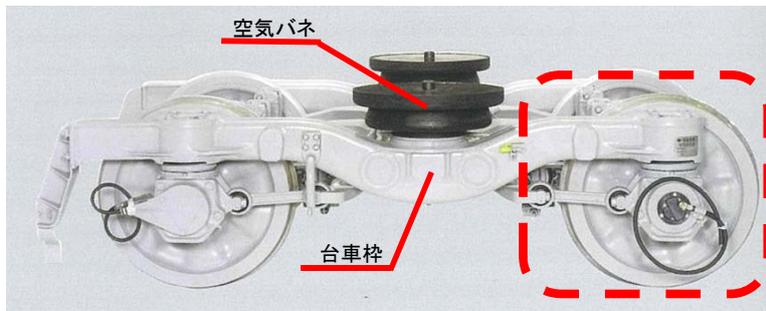
【 事 業 内 容 】	2年度予算額
14 3000R形車両 軸箱支持装置特殊ゴム購入事業	

(1 事業目的・内容)

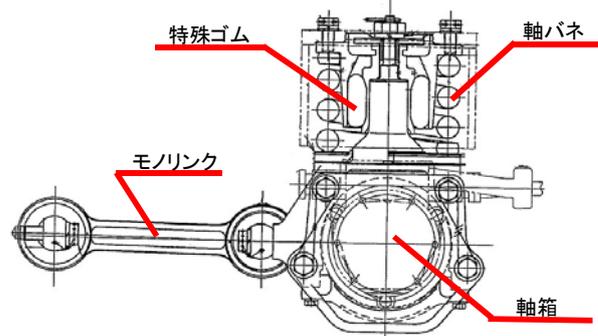
「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において車両の安全運行確保と性能維持のため軸箱支持装置で使用している特殊ゴムを購入するものです。
 軸箱支持装置は、輪軸(車輪と車軸を結合した部分)と台車枠を軸バネや特殊ゴムにて結合することにより、走行中の輪軸を台に車枠に対して安定させると同時に線路状況によって発生する振動を吸収する装置です。
 特殊ゴムの交換作業は台車を分解しないとできないため、全般・重要部保全検査工程に合わせて使用限度に達した特殊ゴムを交換して安全な運行と性能維持に努めます。

年度別積算金額

項 目		R2年度	R3年度	R4年度
		6編成	7編成	1編成
特殊ゴム	数 (48個/編成)	288	336	48
	単価			
税抜金額				
税(10%)				
合計金額				



台車画像



特殊ゴム図

(2 前年度から変更・見直した点)

新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(計画)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 吉田(和)	

(単位:千円)

【 事業 内 容 】	2年度予算額
15 3000形車両 避雷器購入事業	

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において車両の安全運行確保と性能維持のため避雷器を購入するものです。

車両に搭載された避雷器は、列車運行上、重要な電気関係機器を落雷の被害から守っています。また、車両は、直接落雷の被害を受けなくても電車線に異常に高い電圧を発生し、車両の機器に損傷を及ぼす恐れがあり、これらの被害を防止する重要な機器です。

避雷器の経年劣化に起因する絶縁低下が発生しています。絶縁が低下すると架線が地絡して走行不能になるため定期入場時に交換して安全な運行に努めます。

年度別積算金額

項 目		R2年度 10編成
避雷器	数 (2個/編成)	20
	単価	
税抜金額		
税(10%)		
合計金額		



避雷器 画像

(2 前年度から変更・見直した点)

新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)

(単位:千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
16 3000形車両 重要部・全般保全検査等委託事業	396,843

(1 事業目的・内容)

鉄道車両の安全運行の確保と性能維持を目的として、「鉄道に関する技術上の基準を定める省令及び「施設及び車両の定期検査に関する告示(国土交通省告示)」に基づき、各鉄道事業者が鉄道車両に関する基準及び検査周期等を定めた実施基準(横浜市高速鉄道車両実施基準)を届け出ており、この実施基準に定めた検査周期により実施する重要部保全検査・全般保全検査・新重要部検査等の業務を委託して行います。平成31年度から4年間の複数年契約としており、4年契約の2年目となります。

- (1)重要部保全検査(検査周期5年・60万km以内)
 - ア 車体と台車を分離し、床下機器を取り外して、台車等の非破壊検査・ブレーキ弁類の単体検査。
 - イ 動力発生装置・走行装置・基礎ブレーキ装置・制御装置・補助電源装置・その他の重要な装置の分解整備を行うと共に、摩耗部品の交換等も行います。
 - ウ 保安装置のATC装置・列車無線装置は製造業者による点検整備を行います。
 - エ 整備終了後に構内及び本線試運転を実施し、総合評価を行います。
- (2)全般保全検査(検査周期10年以内)
 - ア 重要部保全検査の内容に加え、ブレーキ弁類の部品交換、ゴムホース類の交換、車輪軸の軸受け交換。
 - イ 主電動機の分解整備等、車両全般にわたり検査します。
- (3)新重要部検査(検査周期5年・60万km以内)
 - ア 在姿による月検査レベルの機能検査を行い重要な装置の点検及び摩耗品の交換をします。
 - イ 保安装置のATC・ATO装置・YTM装置は製造業者による点検整備を行います。
- (3)特別整備
 - ア 空調装置の性能維持と臭い対策のため定期洗浄年2回。(4月使用前洗浄:10月中間洗浄:38編成×2回)
 - イ 冷房装置のロールフィルター交換及び空調ダクト清掃・吹出し口フィルターの交換。(全車)
 - ウ 3000R形車両の劣化した客室シートの張替え。
 - エ 3000AN形車両の劣化した銘板補修や塗油装置点検整備及びその他業務補助。

年度別施行数および積算金額

項目	単価	単位	R1年度		R2年度		R3年度		R4年度	
			数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
重要部保全検査		式	1	206,361			1	31,704		
車体ほか	28,541	編成	7	199,787			1	28,541		
ATC装置(1)	2,644	編成					1	2,644		
ATC装置(2)	346	編成		2,422						
列車無線装置	519	編成	8	4,152			1	519		
全般保全検査		式	1	33,445	1	228,467	1	224,341	1	255,832
車体ほか	30,200	編成	1	30,200	7	211,400	7	211,400	8	241,600
ATC装置(1)	2,644	編成	1	2,644	2	5,288	2	5,288	2	5,288
ATC装置(2)	2,298	編成			3	6,894				
ATC装置(3)	692	編成					5	3,460	6	4,152
ATC装置(4)	346	編成						692		
列車無線装置(1)	599	編成			7	4,193	7	4,193	8	4,792
列車無線装置(2)	601	編成	1	601						
新重要部検査		式	1	18,984	1	18,984			1	6,328
車体ほか	5,724	編成	3	17,172	3	17,172			1	5,724
ATC装置	604	編成	3	1,812	3	1,812			1	604
特別整備		式	1	117,858	1	101,725	1	123,747	1	136,875
空調維持点検整備	512	編成	76	38,912	76	38,912	76	38,912	76	38,912
冷房装置RF交換	140	編成	38	5,320	38	5,320	38	5,320	38	5,320
ダクト清掃フィルター交換	945	編成	38	35,910	38	35,910	38	35,910	38	35,910
車体窓枠修理等	654	編成	7	4,578	2	1,308	6	3,924	7	4,578
客室シート張替	7,307	編成			2	14,614	5	36,535	7	51,149
塗油装置点検	1,070	編成	1	1,070	2	2,140	2	2,140		
S形脱シュー対策	338	編成	6	2,028						
A・N形銘板補修	503	編成	4	2,012	7	3,521	2	1,006	2	1,006
S形VVVF装置脱着	2,591	編成	7	18,137						
S形空調装置脱着	1,413	編成	7	9,891						
その他業務補助等		式	1	11,591	1	11,591	1	11,591	1	11,591
税(H31前期まで8%、以降10%)		式	1	35,717	1	36,076	1	39,138	1	41,062
合計金額				423,956		396,843		430,521		451,688

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令及び施設及び車両の定期検査に関する告示
横浜市高速鉄道車両実施基準

(4 年次表)

	元年度予算	2年度予算	3年度予定	4年度予定	5年度以降	総 額
事業費	392,805	396,843	430,521	451,688		1,671,857
債務負担設定	1,342,217					1,342,217

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 38 車両修繕費	項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
17 3000A形車両補助電源装置改修事業	62,439

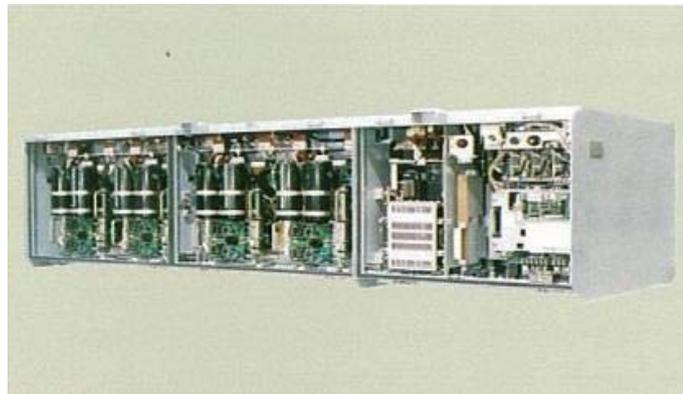
(1 事業目的・内容)

3000A形車両補助電源装置は新車搬入から27年が経過しており、同装置は2007年に一部の装置を更新しています。
車両の電源を作り出すための大切な装置である補助電源装置は更新後11年が経過していることから、機器の経年劣化による故障も増えているため、3000A形車両の延命と健全な車両の提供を目的に行う改修事業です。

平成19年度改修後、11年経過
○内訳

(単位:千円)

項 目	編 成	R1年度	R2年度	R3年度
補助電源装置改修	8編成	2編成	3編成	3編成
税抜		37,842	56,763	56,763
税		3,784	5,676	5,676
改修金額		41,626	62,439	62,439



3000A形 補助電源装置

○ブルーライン車両修繕計画(令和元年度～令和3年度) 合計 8編成施工

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 年次表)

	元年度予算	2年度予算	3年度予定	4年度予定	5年度以降	総 額
事業費	49,993	62,439	62,437			174,869
債務負担設定	163,477					163,477

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
18 3000A形車両 VVVF制御装置予防保全事業	145,200

(1 事業目的・内容)

本件は、車両の安全運行確保と性能維持を目的として3000A形車両制御装置に修繕を実施する業務委託です。
3000A形車両の制御装置は製造から約26年が経過し、経年劣化に起因する輸送障害や故障が散見されている。これらを未然に防止するために、予防保全を目的とした機器の修繕を行います。

数量

3000A形車両 8編成 (平成31年度に2編成、令和2年度に6編成の計8編成を施工)

内訳 (1編成当り)

項目	数量	単位	単価	金額
部材費	1	式	5,076	5,076
予防保全作業費	1	式	11,807	11,807
光ファイバー交換作業費	1	式	4,103	4,103
取り外し・取り付け作業費	1	式	507	507
現地試験費	1	式	507	507
小計				22,000



積算金額 (6編成分 = 1編成当り × 6編成)

項目	数量	単位	単価	金額
1編成当り	6	編成	22,000	132,000
税抜計				132,000
消費税(10%)				13,200
小計				145,200

令和元年度と令和2年度の2か年間の複数年契約となります。
令和元年度に2編成、令和2年度に6編成の計8編成を施工します。

項目	数量		単位	単価	金額
	R1年度	R2年度			
3000A形車両 VVVF制御装置 予防保全事業	2	6	編成	22,000	
税抜計	44,000	132,000			176,000
消費税(10%)	4,400	13,200			17,600
小計	48,400	145,200			193,600

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 年次表)

	元年度予算	2年度予算	3年度予定	4年度予定	5年度以降	総 額
事業費	48,906	145,200				194,106
債務負担設定	154,440					154,440

令和2年度 修繕費 事業計画書

予算科目 款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 38 車両修繕費			担当 所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)
--	--	--	---------------------------------

(単位: 千円)

【事業内容】	2年度予算額
19 3000形車両 ブレーキライニング張替修理事業	

(1 事業目的・内容)

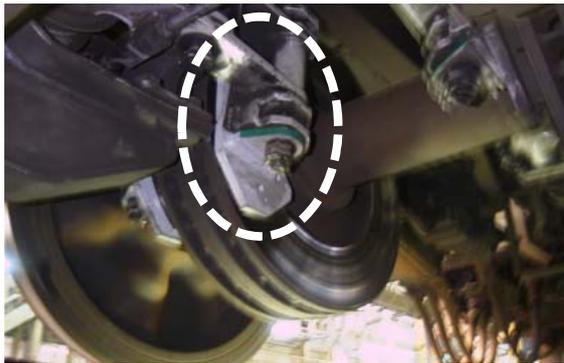
ディスクブレーキに使用しているブレーキライニング(パット)の使用限度に達したものを、新品に張り替えます。令和2年度は、2,200枚を計上しました。

積算金額			
項目	数(枚)	単価	小計
ブレーキライニング張替	2,200		
税(10%)			
合計金額			

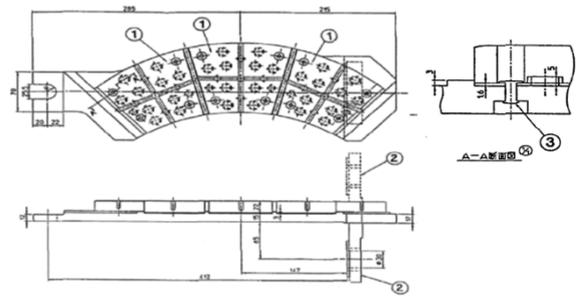
※単価は令和元年度実績

全般保全検査・重要部保全検査で新品ライニングと交換されます。このブレーキライニングを選定し、中古品として再利用を徹底しています。

ライニング使用基準	
新品ライニング 厚さ	22mm
使用限度ライニング 厚さ	8mm



ライニング 画像



項番	名称	材質	数量	備考
①	ライニング	耐摩レジン	3	左・中央・右
②	ライニング受	SS400	1	
③	薄平リベット	SV330	1 2	JIS B1213

ライニング 図面

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 38 車両修繕費	項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)

(単位:千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
20 3000N/R/S形車両 混雑時携帯電話電源オフエリアフィルム貼り替え事業	10,583

(1 事業目的・内容)

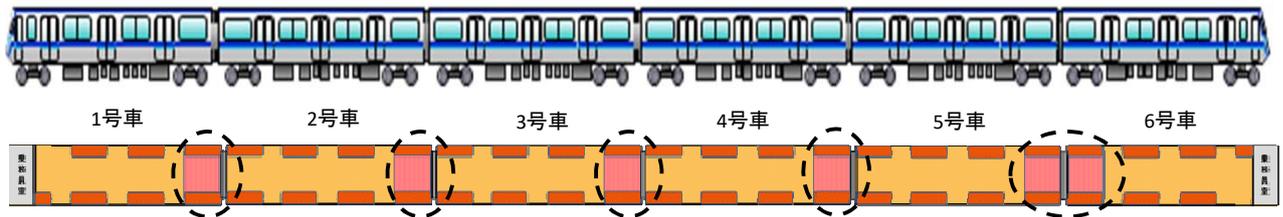
市営地下鉄は混雑時に携帯電話電源オフエリアの識別として車内の床にフィルムを貼り付け、お客様にわかりやすいようにしています。携帯電話電源オフエリア床フィルムの設置から6年が経過しており、床フィルムの劣化が著しく、剥がれがあるために補修を要します。そのため、携帯電話電源オフエリアの床フィルム貼り替えを実施します。
平成30年度から令和2年度までの3年計画の3年目であり、令和2年度まで債務負担設定済みです。

<委託内容>

- 1 3000N/R/S形(29編成)の混雑時携帯電話電源オフエリア床フィルム貼り換え
 - 2 混雑時携帯電話電源オフエリア床フィルムはがし、糊除去
 - 3 混雑時携帯電話電源オフエリア床フィルム貼り付け
- ※ 3000A形は補修・修理対応

年度別施行編成数

	30年度	R1年度	R2年度	合計
施行編成数	10編成	10編成	9編成	29編成



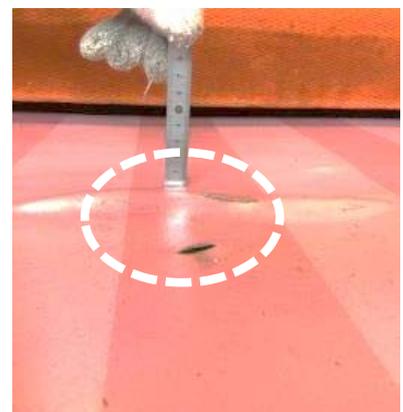
混雑時携帯電話電源オフエリア位置 図



平成23年施行時 画像



現在の床フィルム 画像



床フィルム剥がれ 画像

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 年次表)

	元年度予算	2年度予算	3年度予定	4年度予定	5年度以降	総 額
事業費	12,007	10,583				22,590
債務負担設定						23,166

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 38 車両修繕費	項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)

(単位:千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
21 3000N/R/S形車両 各装置箱パッキン交換事業	

(1 事業目的・内容)

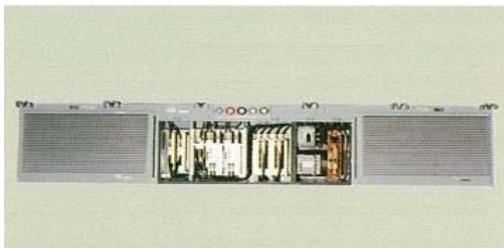
本件は、ブルーライン3000N/S形の制御装置箱、3000N形の補助電源装置箱、3000S形のブレーキ制御ユニット箱、3000N/R/S形のYTM(モニタ)・ATO装置箱、ATC装置箱 のパッキンを交換するものです。

経年劣化によるパッキンの劣化が著しく、本体とフタとの間に隙間ができ塵埃等(鉄粉含む)が混入しています。塵埃等が混入することにより電子機器に悪影響をおよぼし、故障へと波及する恐れがあるためパッキン交換を行い、車両の安全運行確保と性能維持を目的に本事業を行います。

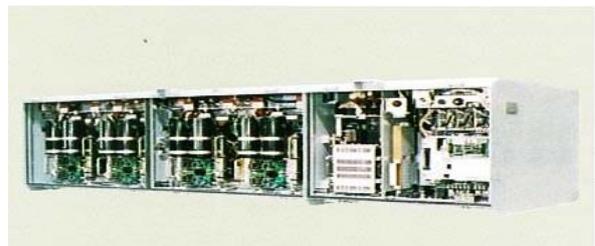
対象施行数量

- 制御装置箱・補助電源装置箱 : 2台/編成
- ブレーキ制御ユニット箱 : 6台/編成
- YTM(N形はモニタ)・ATO・ATC箱 : 6台/編成

積算金額			
形式および装置名	数(編成)	単価	計
3000N形(制御装置、補助電源装置)	3		
3000S形(制御装置、ブレーキ制御ユニット)	0		
3000N・R・S形(YTM(N形はモニタ)・ATO、ATC)	5		
税抜金額			
税(10%)			
合計金額			



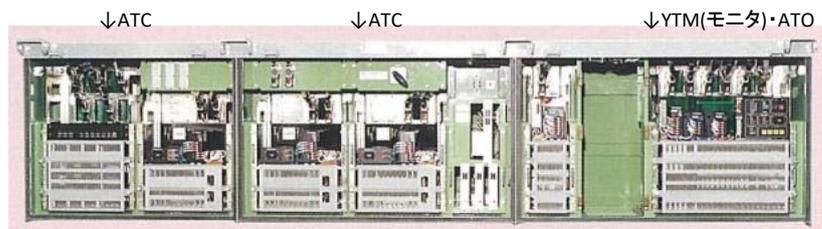
制御装置 画像



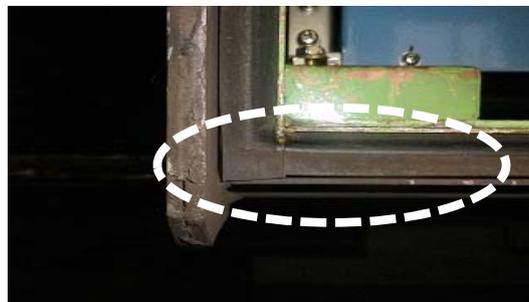
補助電源装置 画像



ブレーキ制御ユニット 画像



YTM(N形はモニタ)・ATC、ATC装置 画像



パッキンへたり 画像

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

横浜市高速鉄道車両実施基準による各部品の使用限度および交換周期による。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(計画)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 吉田(和)	

(単位:千円)

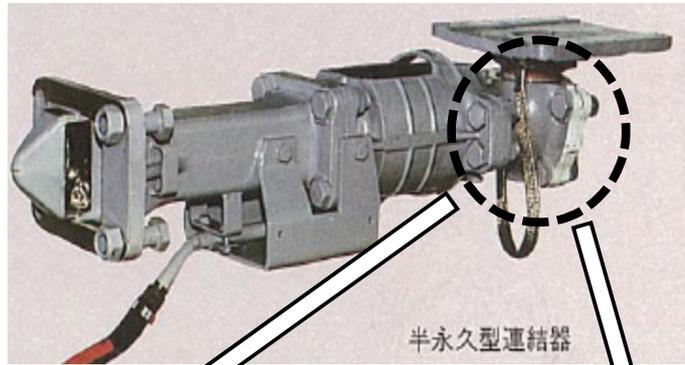
【 事 業 内 容 】	2年度予算額
22 3000A形車両 連結器修理事業	

(1 事業目的・内容)

車両連結器は、車両間の連結に使用されているもので、その構造は、尾カン・球頭部・緩衝部等で構成されています。
 車両連結器の尾カンと球頭部間の潤滑油に使用している樹脂が摩耗して、使用限度に達しているため、張替修繕をします。

数量 5組(10個)／1編成分 使用限度10年

積算金額			
項 目	数(編成)	単価	計
連結器修理	1		
	税(10%)		
	合計金額		



半永久連結器 画像



連結器尾カン 画像



尾カン蓋 画像

張り替える
オイルレス樹脂
(球頭部内部)



連結器球頭部 画像

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用 目：30 車両保存費 節・細節：38 車両修繕費	所属：車両課(計画) 担当者：吉田(和)

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
23 3000V形車両 PQモニタリング装置校正事業	

(1 事業目的・内容)

本件、PQモニタリング装置は3000V形車両に搭載されており、脱線に対する安全性の指針である脱線係数を測定する装置です。装置は主に両先頭車の中間車寄りに配置したPQモニタリング台車と制御装置から構成されています。台車および車体に搭載した各種センサにより、輪重、横圧、軸箱振動加速度、車体振動加速度などを測定し、制御装置にそれらのデータを記録して車両や軌道管理に役立てます。本装置は正確なデータを得るため各種センサの校正を1年毎に車輪削正後に実施しなければなりません。よって、装置の維持と管理のため各種センサの校正を実施し車両や軌道管理に役立て安全な運行に努めます。

項 目	積算金額		
	数(人工)	単価	計
3000V形車両 PQモニタリング装置校正	1		
税(10%)			
合計金額			



PQモニタリング台車



PQモニタリング装置

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予算科目	担当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)

(単位:千円)

【事業内容】	2年度予算額			
24 3000形車両 その他修理事業	72,258			
(1 事業目的・内容)				
<p>車両の不具合箇所の、修理対応をおこないます。</p> <p>R2年度予算は、H28～H30年度の平均修理実績金額を計上しました。</p>				
過去3年間の予算額と決算額				
項目	28年度	29年度	30年度	R2年度
予算額	21,232	55,147	52,390	72,258
実績修理費	55,147	84,016	77,610	-
(2 前年度から変更・見直した点)				
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)				
鉄道に関する技術上の基準を定める省令 第87条「施設及び車両の保全」				

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(計画)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 吉田(和)	

(単位:千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
25 3000形車両 車輪交換事業	

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において、車両の安全運行確保と性能維持のため使用限度に達した車輪を新品に交換します。

入場車両別 車輪交換軸数

車両形式	編成	交換軸数
3000A	31	0
3000N	36	4
	37	0
3000A	29	20
	39	24
3000R	40	24
	予 備	12
合 計		84

1軸あたり車輪交換金額

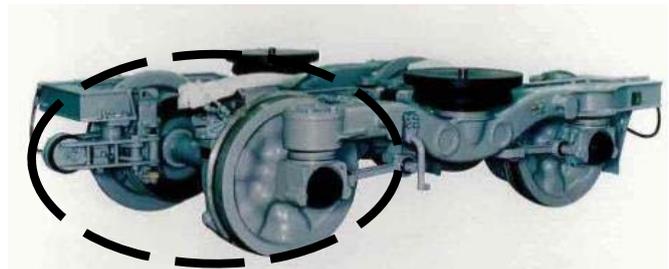
項目	単価
労務費	
諸経費	
計	

積算金額

項目	数(軸)	単価	計
車輪交換	84		
税(10%)			
合計金額			



輪軸 画像



台車画像



車輪交換作業 画像

(2 前年度から変更・見直した点)

新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

横浜市高速鉄道車両実施基準による、各部品の使用限度および交換周期による。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(計画)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 吉田(和)	

(単位:千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
26 3000形車両 ディスク板交換事業	

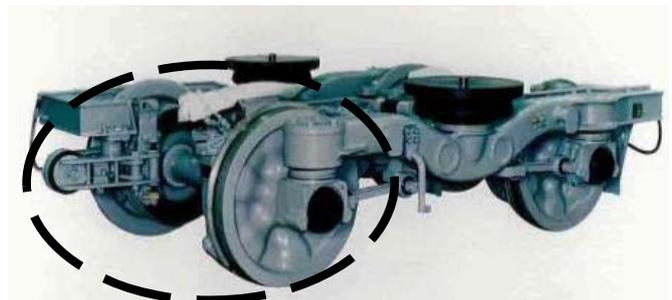
(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において、車両の安全運行確保と性能維持のため使用限度に達したディスク板を新品に交換します。

車両形式	編成	交換組数
3000A	31	0
	36	4
3000N	37	0
	29	3
3000R	39	1
	40	8
予 備		20
合 計		36

項目	単価
労務費	
諸経費	
計	

項 目	数(組)	単価	計
車輪交換	36		
税(10%)			
合計金額			



ディスク板 画像

(2 前年度から変更・見直した点)

新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

横浜市高速鉄道車両実施基準による、各 부품の使用限度および交換周期による。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
27 3000R形車両戸閉装置改修事業	

(1 事業目的・内容)

戸閉装置は、お客さまの乗降時に車両ドアの開閉を行う装置です。
 ドアの開閉に重要な同装置内の、歯付ベルト及びベアリングに、経年劣化による破損で故障が発生しています。このままでは、ドアの開閉に支障をきたし、お客さまを安全に乗降させることが出来なくなります。そのため本事業で、戸閉装置の故障を未然に防ぐ目的で定期検査入場時に歯付ベルト及びベアリングの交換を行います。

数量
 3000R形車両 14編成

1編成あたりの戸閉装置改修金額内訳

項目	歯付ベルト交換	ベアリング交換
	単価	単価
労務費		
諸経費		
計		
合計		

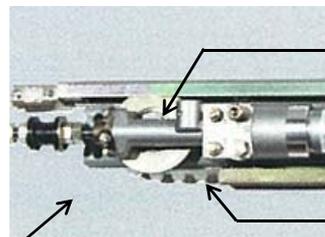
年度別積算金額

項目	単価	R2年度	R3年度	R4年度
		6編成	7編成	1編成
戸閉装置改修				
	税(10%)			
	合計金額			



車両ドア

ドア上部に戸閉装置を搭載



ベアリング

歯付ベルト



戸閉装置

(2 前年度から変更・見直した点)

新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位:千円)

【事業内容】	2年度予算額
28 3000N形車両戸閉装置改修事業	

(1 事業目的・内容)

戸閉装置は、お客さまの乗降時に車両ドアの開閉を行う装置です。ドアの開閉に重要な同装置内の、ベアリングに経年劣化による破損で故障が発生しています。このままでは、ドアの開閉に支障をきたすし、お客さまを安全に乗降させることが出来なくなります。そのため本事業で、戸閉装置の故障を未然に防ぐ目的でベアリングの交換を行います。

数量
3000N形車両 6編成

1編成あたりの戸閉装置改修金額内訳

項目	ベアリング交換 単価
労務費	
諸経費	
計	

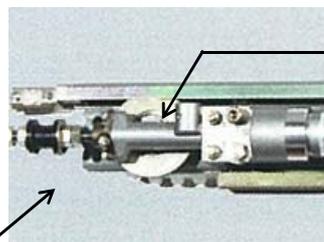
積算金額

項目	数量	単位	単価	金額
戸閉装置改修	6	編成		
				税抜計
				税(10%)
				合計金額



車両ドア

ドア上部に戸閉装置を搭載



ベアリング



戸閉装置

(2 前年度から変更・見直した点)

新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 節・細節：38 車両修繕費	所属：車両課(計画) 担当者：吉田(和)
項：01 営業費用 目：30 車両保存費	

(単位:千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
29 3000形車両送風機清掃事業	

(1 事業目的・内容)

送風機は滑らかなソフトな風を送風しお客様に均等に涼しさをお届けすることができ、冷房時の空気循環と中間期の扇風機としてお客様に快適な空調サービスをお届けする装置です。
送風機は車内の空気と一緒に空気中のほこり等を吸い込んで送風しているため、送風機内にほこり等が多く付着します。この付着したほこり等が蓄積すると、塊となってお客さまに落下する事象が発生しています。
これまでは、定期入場時(4年)ごとに取外し清掃を行っていましたが、中間期の2年で送風機の取外し清掃を行い、客室の環境維持に努めます。

数量
3000形車両 8編成

形式別1編成あたりの金額内訳

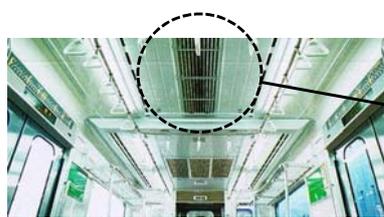
項目	3000A形送風機清掃	3000R形送風機清掃
労務費		
諸経費		
計		

積算金額

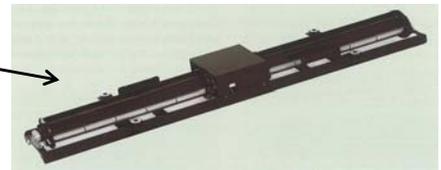
項目	数量	単位	単価	金額
3000A形送風機清掃	2	編成		
3000R形送風機清掃	7	編成		
			税抜計	
			税(10%)	
			合計金額	



客室天井中央



天井内部に送風機を搭載



天井内部に送風機を搭載

(2 前年度から変更・見直した点)

新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(計画)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 吉田(和)	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
30 3000形S形車両座席シート張替事業	

(1 事業目的・内容)

座席シートは座面と背もたれで構成されており、パケットタイプを採用したもので、表面にモケットという布を張っています。この表面に張られた布は、長期間にわたり繰り返しお客さまが着座したことにより摩耗し、破けてしまうことが多発しています。シートの布は複雑に縫い付けてあることから、破れた箇所を補修することは難しく、また破損箇所が多いことから、本事業により摩耗した座席シートの張り替えを行い、客室環境の維持を行います。

数量
3000S形車両 7編成

1編成あたりの金額内訳

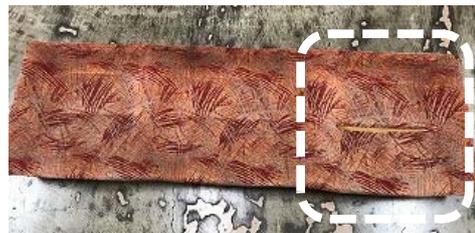
項目	座席シート張り替え
労務費	
諸経費	
計	

積算金額

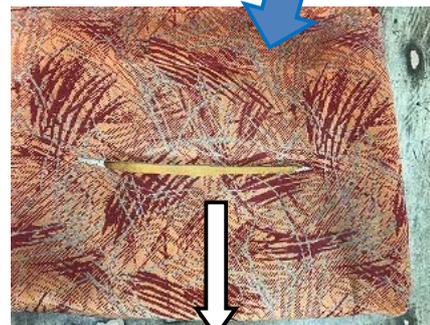
項目	数量	単位	単価	金額
座席シート張り替え	1	編成		
				税抜計
				税(10%)
				合計金額



座席シート



切れた座席シート



縫い合わせ箇所が約200mm切れている。

(2 前年度から変更・見直した点)

新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位:千円)

【 事業 内 容 】	2年度予算額
31 3000形車両主電動機回転試験業務委託事業	

(1 事業目的・内容)

主電動機は、車両の走行のための動力を生じる電動機(モータ)で、1編成に16台の主電動機が搭載されています。
 全般・重要部保全検査では、主電動機を分解整備し、組立後に試験装置を用いて回転試験を実施しています。
 しかし、現在は試験装置が故障しており、修理不可能な状態で回転試験が行えません。
 試験が行えないと出場時の検査を満たしておらず、出場できないため、本事業を実施します。

数量
 令和2年度 3000形入場車両数 (6編成)

1編成あたりの金額内訳

項目	回転試験
試験費	
労務費	
諸経費	
計	

積算金額

項目	数量	単位	単価	金額
主電動機回転試験	6	編成		
			税抜計	
			税(10%)	
			合計金額	



使用不能な回転試験器



主電動機本体



台車搭載の主電動

(2 前年度から変更・見直した点)

新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 山田、中嶋

(単位:千円)

	2年度 A	元年度 B	増△減(A-B)
予 算 額	772,945	766,891	6,054

	ブルーライン
○	グリーンライン
	共通

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
1 重要部・全般検査用材料調達事業	230,062

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部・全般検査において、車両の安全運行確保と性能維持のため、定期交換が必要となる各装置の部品を購入します。
なお、本事業は、令和3年度入場予定の編成に使用する材料を1年前倒して調達するものです。

(2 前年度から変更・見直した点)

- ・定期検査の入場計画に基づき対象の編成数が増加となります。(4編成 → 6編成)
- ・過去購入実績及び見積を使用し、各部品の必要予定数量から予算金額を算出しました。
- ・前年度から引き続き経年劣化による台車ゴム部品の交換を実施します。
- ・必要な予備品の数量を見直しました。

・対象編成数:

	重要部検査	全般検査	計
令和3年度	1編成	5編成	6編成

<内訳>

(単位:千円)

重要部・全般検査用材料		
項目	重要部検査[1編成あたり]	全般検査[1編成あたり]
台車部品		
パンタグラフ部品		
空制・電子機器部品		
戸閉装置部品		
座金・Oリング等		
計		

(単位:千円)

予算額			
項目	単価	数量	金額
重要部検査用材料		1 編成	
全般検査用材料		5 編成	
計			230,062

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

横浜市高速鉄道車両整備実施基準による各部品の使用限度及び交換周期による。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 節・細節：38 車両修繕費	項：01 営業費用 目：30 車両保存費 所属：車両課(技術) 担当者：山田、中嶋

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
2 列車検査・月検査用材料調達事業	9,681

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する列車検査・月検査において、車両の安全運行確保と性能維持のため、定期交換が必要となる消耗品や摩耗品を購入します。

(2 前年度から変更・見直した点)

・各部品の必要予定数量を見直し、過去購入実績及び見積により予算金額を算出しました。

<内訳>

(単位:千円)

項目	金額	備考
パンタグラフ部品		固形潤滑剤等
一般電気部品		スイッチ等
計	9,681	

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

横浜市高速鉄道車両整備実施基準による各部品の使用限度及び交換周期による。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予算科目			担当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 山田、中嶋	

(単位:千円)

【事業内容】	2年度予算額										
3 車輪購入事業											
<p>(1 事業目的・内容)</p> <p>「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部、全般検査において、車両の安全運行確保と性能維持のため、使用限度に達した車輪を交換するため、交換用車輪を購入します。</p>											
<p>(2 前年度から変更・見直した点)</p> <p>資材、原料価格の上昇及び人件費、物流費等の上昇により価格が上昇しました。 契約業者より、次年度発注予定であることを考慮したうえでの見積を徴収し積算しました。</p>											
<p><内訳> ※1編成あたりの使用枚数:32枚 (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>編成数</th> <th>数量</th> <th>単価</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10000形車両用車輪</td> <td>1</td> <td>32</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			編成数	数量	単価	金額	10000形車両用車輪	1	32		
	編成数	数量	単価	金額							
10000形車両用車輪	1	32									

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 山田、中嶋

(単位:千円)

【事業内容】	2年度予算額
5 車両検査ほか委託事業	320,343

(1 事業目的・内容)

鉄道車両の安全な運行を確保するため、鉄道に関する技術上の基準を定める省令(国土交通省)及び施設並びに車両の定期検査に関する告示(国土交通省告示)により定められた各種定期検査として、列車検査、月検査及び重要部検査、全般検査を実施するものです。
H29年度から4年間の複数年契約とします。4年契約の4年目となります。

○定期検査の内容

列車検査	10日を超えない期間ごとに車両の主要部品の状態について、目視等により検査を行います。
月検査	90日を超えない期間ごとに車両の状態及び機能について検査を行います。
重要部検査	4年または走行距離が60万キロメートルを超えない期間のいずれか短い期間ごとに、動力発生装置、走行装置、ブレーキ装置等、主要部分について分解・検査を行います。
重要部検査[在姿]	重要部・全般検査の周期延伸に向けて、検査周期を伸ばした車両の走行試験を実施しています。試験車両は、分解検査ではなく在姿にて車両検査を実施し安全確認を行います。
全般検査	8年を超えない期間ごとに、車両を全般にわたって分解・検査を行います。

(2 前年度から変更・見直した点)

・29年度から4年間の複数年契約としており、R2年度は4年契約の4年目となります。

(単位:千円)

＜車両検査ほか委託事業内訳＞				H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		
				数量	金額(税込)	数量	金額(税込)	数量	金額(税込)	数量	金額(税込)	
重要部検査 全般検査	車体ほか	重要部検査	30,552	編成	3	98,988	1	32,996	4	131,984	1	33,607
		重要部検査[在姿]	3,302	編成	0	0	1	3,566	0	0	0	0
		全般検査	33,304	編成	2	71,936	2	71,936	1	35,968	3	109,902
		車輪交換	3,984	編成	3	12,909	3	12,909	2	8,606	0	0
	ATC装置ほか	重要部検査	2,650	編成	3	8,586	1	2,862	4	11,448	1	2,915
		全般検査	2,650	編成	2	5,724	2	5,724	1	2,862	3	8,745
	列車無線装置	重要部検査	800	編成	3	2,592	1	864	4	3,456	1	880
		全般検査	800	編成	2	1,728	2	1,728	1	864	3	2,640
	計					202,463		132,585		195,188		158,689
	月検査、 列車検査ほか	月検査	500	回	68	36,720	68	36,720	68	36,720	68	37,400
車輪削正		19	軸	272	5,712	272	5,712	272	5,712	272	5,818	
冷房点検		248	回	34	9,112	34	9,112	34	9,112	34	9,281	
暖房点検		248	回	17	4,556	17	4,556	17	4,556	17	4,640	
ライニング張替		8	枚	544	4,896	544	4,896	544	4,896	544	4,987	
列車検査		13	回	576	8,064	576	8,064	576	8,064	576	8,213	
責任者		97	回	244	25,620	244	25,620	244	25,620	243	25,988	
故障対応		43,520	式	1	47,002	1	47,002	1	47,002	1	47,872	
業務補助(検修設備月例点検等)		15,869	式	1	17,138	1	17,138	1	17,138	1	17,455	
計					158,820		158,820		158,820		161,654	
合計					361,283		291,405		354,008		320,343	

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

- ・鉄道に関する技術上の基準を定める省令(国土交通省令)
- ・施設及び車両の定期検査に関する告示(国土交通省告示)
- ・横浜市高速鉄道車両整備実施基準

令和2年度 修繕費 事業計画書

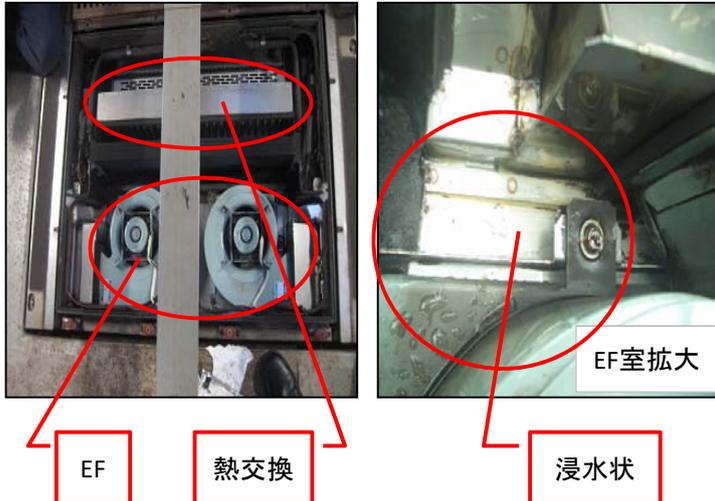
予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 節・細節：38 車両修繕費	項：01 営業費用 目：30 車両保存費 所属：車両課(技術) 担当者：山田、中嶋

(単位:千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
6 空調装置オーバーホール事業	

(1 事業目的・内容)

10000形車両搭載空調装置は、熱交換器、パッキン等部品の経年劣化により、空調効率が低下しております。また、熱交換器からの排水が他の機器室へ侵入しており、客室への水漏れや、同装置内コンプレッサの動作不良を引き起こす恐れがあります。



(2 前年度から変更・見直した点)

- ・重要部、全般検査入場車両を対象に交換を実施します。
- ・R年度の契約金額と予定編成数により予算金額を算出しました。

	対象編成数	対象編成
平成29年度実施予定	-	トライアル1台(第2編成)
平成30年度実施予定	2	第10、11編成
令和元年度実施予定	5	第9、12~15編成
令和2年度実施予定	4	第1~4編成
令和3年度実施予定		
令和4年度実施予定		
令和5年度実施予定		
計	15	

<内訳> (単位:千円)

	編成数	単価	金額
空調装置オーバーホール	4		
空調装置脱着作業	4		
合計			

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 年次表)

	元年度予算	2年度予算	3年度予定	4年度予定	5年度以降	総額
事業費	153,380					
債務負担設定	63,322					

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 山田、中嶋

(単位:千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
7 その他修理事業	61,683

(1 事業目的・内容)

車両故障等が発生した際に、不具合箇所の修理を実施するものです。
 安全な運行の提供の為、迅速な修理を実施する必要があります。
 次年度予定されている4編成分の客室シート表地交換費用を含みます。
 次年度予定されている4編成分の携帯電話電源オフエリア床フィルム交換作業費用を含みます。
 次年度予定されている4編成分の車両装置箱パッキン貼換費用を含みます。
 次年度予定されている4編成分の乗務員室側開戸防水ゴム等交換費用を含みます。
 次年度予定されている3編成分の戸先ゴム交換費用を含みます。
 次年度予定されている1編成分の車輪交換費用を含みます。

(2 前年度から変更・見直した点)

- ・平成27年度までに発生した故障については、およそ半数が業者の瑕疵として修理対応してきました。開業から10年が経過し経年劣化等が発生している状況で、瑕疵修理での対応は不可となっています。今後発生する故障については、基本的に全件契約する必要があります。
- ・過去2年間の平均修理単価と今年度の修理件数予測(70件)を基に緊急修理に必要な予算を算出しました。

	緊急修理件数(件)	緊急修理平均単価(千円)
平成29年度	80	
平成30年度	59	
令和元年度 予測	70	

- ・ 緊急修理費用
 =緊急修理件数80件 × 緊急修理単価445千円 (H29年度) = 千円
- ・ 客室シート表地交換費用[編成] × 4 編成分 = 千円
- ・ 携帯電話電源オフエリア床フィルム交換作業費用[編成] × 4 編成分 = 千円
- ・ 電子機器箱パッキン貼換費用[編成] × 4 編成分 = 千円
- ・ 乗務員室側開戸防水ゴム等交換費用[編成] × 4 編成分 = 千円
- ・ 戸先ゴム交換費用[編成] × 3 編成分 = 千円
- ・ 車輪交換費用[編成] × 1 編成分 = 千円

計	61,683 千円
---	-----------

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 38 車両修繕費	項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 所属: 車両課(技術) 担当者: 山田、中嶋

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
-------------	--------

8 車両屋根絶縁材補修事業

(1 事業目的・内容)

10000形車両は開業から10年が経過したため、屋根の絶縁材が経年劣化し黄変、ひび割れが発生している箇所があります。絶縁材に剥離が発生している箇所については、劣化箇所を除去して再塗布します。重要部、全般検査入場車両を対象に、6両化予定の編成を優先して補修を実施します。

予定施工編成数	
令和2年度	1
令和3年度	
令和4年度	
令和5年度	

<内訳>

(単位:千円)

	編成数	単価	金額
屋根絶縁材補修工事	1		

(2 前年度から変更・見直した点)
新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 山田、中嶋

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
9 非常換気装置オーバーホール	

(1 事業目的・内容)

10000形車両の非常換気装置は経年劣化による装置蓋裏の断熱材剥がれや、寿命によるインバーターの交換等、部品交換が必要な状況です。使用開始から10年が経過したため、オーバーホールを実施し安全な運行に必要な非常換気装置の維持を行います。重要部、全般検査入場車両を対象に、6両化予定の編成を優先してオーバーホールを実施します。

予定施工編成数	
令和2年度	1
令和3年度	
令和4年度	
令和5年度	

<内訳>

(単位:千円)

	編成数	単価	金額
非常換気装置オーバーホール	1		
非常換気装置脱着作業	1		
計			

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令 第73条二 客室内は、必要な換気をすることができること

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 上永谷保守管理所	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 平塚、坪井	

(単位:千円)

	2年度 A	元年度 B	増△減(A-B)
予 算 額	30	29	1

<input type="radio"/>	ブルーライン
<input type="radio"/>	グリーンライン
<input type="radio"/>	共通

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
1 車両修繕費 材料費	30
(1 事業目的・内容)	
車両の部材を購入する費用	
(2 前年度から変更・見直した点)	
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)	

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 37 変電所設備修繕費	項: 01 営業費用 目: 20 電路保存費 所属: 新羽保守管理所 担当者: 本間

(単位:千円)

	2年度A	元年度B	増減(A-B)
予 算 額	30	29	1

○	ブルーライン
	グリーンライン
	共通

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
1 変電所設備修繕 部品材料 電気区	30
(1 事業目的・内容) 緊急の変電所設備修繕に必要な部品・材料を購入するための新羽保守管理所長に前渡する資金 30	
(2 前年度から変更・見直した点) 金額をH30と同額に変更	
(3 根拠法令・規程、「現場の意見」等) 前渡資金があれば、速やかに部品・材料を購入し修繕作業を行える	

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 川和保守管理所	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 今野・阿部	

(単位:千円)

	2年度 A	元年度 B	増△減(A-B)
予 算 額	30	29	1

	ブルーライン
○	グリーンライン
	共通

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
1 車両修繕 部品材料	30
(1 事業目的・内容)	
緊急の車両修繕に必要な部品・材料を購入するための小額物品費	
(2 前年度から変更・見直した点)	
なし	
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)	
局の小額物品制度による	

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)

(単位:千円)

	2年度 A	元年度 B	増△減(A-B)
予 算 額	39,276	49,395	△ 10,119

○	ブルーライン
	グリーンライン
	共通

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
1 材料調達事業	1,897

(1 事業目的・内容)

上永谷及び新羽車両基地に設置している設備等に用いる消耗品を購入します。

(2 前年度から変更・見直した点)

平成28年度～平成30年度の契約実績の平均値を根拠として積算を行いました。

年度	契約実績(税込)
平成28年度	1,035
平成29年度	1,829
平成30年度	2,717

年度	予算要求(税込)
令和2年度	1,897

税率10%

平均値(小数点第一位切上げ)(税込)
 $(1,035+1,829+2,717) \div 3=1,861$

税抜金額
 $1,861 \div 1.08=1,724$

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)

(単位:千円)

【 事業 内 容 】	2年度予算額
2 車両検修設備保守委託事業	

(1 事業目的・内容)

上永谷車両基地、新羽車両基地の車両検修設備は、車両の各種検査及び車両脱線時の復旧等に使用しています。これらの装置の性能、安全性及び寿命を維持する目的で、計画的に保守を行います。



(主電動機気吹装置)



(磁粉探傷装置)



(ルーカス脱線復旧装置)

定期点検案件

点検周期表に基づき点検を実施します。

名称	型式等	数量	使用用途	点検周期	設置場所	R1年度点検	R2年度点検
車両輪重測定装置	-	1台	重要部・全般保全検査等	毎年	上永谷修繕工場	○	○
自動車両洗浄装置	-	各1台	車両洗浄等	2年 (前回H29)	上永谷検車区及び 新羽検車区	○	-
台車洗浄装置	-	1台	重要部・全般保全検査等	2年 (前回H29)	上永谷修繕工場	○	-
台車塗装装置(脱臭装置、塗装ロボット含)	-	1台	全般保全検査等	3年 (前回H28)	上永谷修繕工場	○	-
台車トラバーサ(台車抜取装置)	-	1台	重要部・全般保全検査等	3年 (前回H28)	上永谷修繕工場	○	-
主電動機気吹装置(排気処理、気吹ロボット含)	-	1台	重要部・全般保全検査等	3年 (前回H29)	上永谷修繕工場	-	○
磁粉探傷装置	-	1式	重要部・全般保全検査等	4年 (前回H28)	上永谷修繕工場	-	○
ルーカス脱線復旧装置	-	2台	脱線復旧等	3年 (前回H29)	上永谷検車区及び 新羽検車区	-	○
輪芯旋盤	-	1台	重要部・全般保全検査等	3年 (前回H29)	上永谷修繕工場	-	○

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

車両輪重測定装置 横浜市高速鉄道車両実施基準第46条(静止輪重の管理)
輪重比管理を適正に行うため輪重測定装置の校正を定期的(毎年)行う必要がある。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
3 車両移動機等保守委託事業	

(1 事業目的・内容)

上永谷車両基地及び新羽車両基地に設置されている車両移動機、高所作業車は車輪の削正作業で車両を移動する際や車両点検時の車両屋根を検査する際に使用しています。

これらの車両移動機の性能、安全性及び寿命を維持する目的で、法令で定められた定期自主検査を行います。



車両移動機 (AN77RR-2ST)



車両移動機 (30D-BWAT)

定期点検案件

点検周期表に基づき点検を実施します。

名称	型式等	数量	使用用途	点検周期	設置場所	R1年度点検	R2年度点検
車両移動機	AN77RR-2ST	1台	重要部・全般保全検査等	毎年	上永谷修繕工場	○	○
	30D-BWAT	1台	車輪削正時の車両移動等	毎年	上永谷検車区	○	○
	21HM	1台	車輪削正時の車両移動等	毎年	新羽車両基地	○	○
高所作業車	MAX-LIFT-700	1台	重要部・全般保全検査等	毎年	上永谷修繕工場	○	○
テーブルリフター	ANT-LT-700	1台	重要部・全般保全検査等	3年 (前回H27)	上永谷修繕工場	-	-

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

- 車両移動機 労働安全衛生規則第229条(定期自主検査)
事業者は、1年以内毎に1回、定期に自主検査を行わなければならない。
- 高所作業車 労働安全衛生規則第194条の23(定期自主検査)
事業者は、1年以内毎に1回、定期に自主検査を行わなければならない。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用 目：30 車両保存費 節・細節：39 その他修繕費	所属：車両課(計画) 担当者：吉田(和)

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額
4 クレーン定期自主検査事業	

(1) 事業目的・内容)

車両基地に設備されているクレーンは車両検査にて車両や車両部品等の重量があるものを運搬するために使用しています。各クレーンの性能、安全性及び寿命を維持する目的で、法令で定められた定期自主検査を行います。



(10tホイス付天井クレーン)

定期点検案件

点検周期表に基づき点検を実施します。

名称	重量	数量	使用用途	年検周期	設置場所	月例点検	年次点検	点検周期
天井クレーン	15t/3t	2基	重要部・全般保全検査等	毎年	上永谷修繕工場	11回	1回	毎年
	7.5t	1基	重要部・全般保全検査等	毎年	上永谷修繕工場	11回	1回	毎年
	1t	1基	各装置等の運搬等	毎年	上永谷修繕工場	-	1回	毎年
ホイス付天井クレーン	10t	1基	重要部・全般保全検査等	毎年	上永谷修繕工場	11回	1回	毎年
	2.5t	2基	重要部・全般保全検査等	毎年	上永谷修繕工場	-	1回	毎年
スタッカークレーン	4.2t	1基	重要部・全般保全検査等	毎年	上永谷修繕工場	11回	1回	毎年
	0.8t	2基	各装置等の運搬等	毎年	上永谷修繕工場	11回	1回	毎年
モノレールホイスクレーン	0.25t	2基	各装置等の運搬等	毎年	上永谷検車区	-	1回	毎年
橋形クレーン	8.1t	1基	レール等重量物運搬等	毎年	新羽施設区	11回	1回	毎年
	4.8t	1基	レール等重量物運搬等	毎年	上永谷施設区	-	1回	毎年

性能検査 ※予算は経費にて計上。

性能検査(揚力3t以上が対象)

名称	重量	数量	検査実施周期	実施年
天井クレーン	15t/3t	2基	2年	R2年実施予定
	7.5t	1基		R2年実施予定
ホイス付天井クレーン	10t	1基		R2年実施予定
スタッカークレーン	4.2t	1基		R1年実施
橋形クレーン	4.8t	1基		R1年実施
	8.1t	1基		R1年実施

(2) 前年度から変更・見直した点)

(3) 根拠法令・規程、現場の意見等)

労働安全衛生法第45号の1、同法施行令第15条、クレーン等安全規則第34条(定期自主検査)

1年以内毎に1回、また、1か月以内毎に1回、検査を行わなければならない。

労働安全衛生法 第45条の2

特定自主検査を行う際は、資格を有するもの又は登録を受けたものを実施させなければならない。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用 目：30 車両保存費 節・細節：39 その他修繕費	所属：車両課(計画) 担当者：吉田(和)

(単位：千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
5 フォークリフト等特定自主検査事業	

(1 事業目的・内容)

上永谷及び新羽車両基地で使用しているフォークリフト及び作業台付蓄電池車は、重量がある車両部品の運搬等に使用しています。各フォークリフト及び作業台付蓄電池車の性能、安全性及び寿命を維持する目的で、法令で定められた定期自主検査を行います。



バッテリーフォークリフト

定期点検案件

点検周期表に基づき点検を実施します。

名称	重量	数量	使用用途	点検周期	設置場所
バッテリーフォークリフト	2.5t	1台	物品搬入・移動等	毎年	上永谷修繕工場
	1.65t	1台	物品搬入・移動等	毎年	上永谷検車区
	1.6t	1台	物品搬入・移動等	毎年	上永谷修繕工場
	1.5t	1台	物品搬入・移動等	毎年	上永谷修繕工場
	1.0t	1台	物品搬入・移動等	毎年	新羽検車区
エンジンフォークリフト	3.0t	1台	物品搬入・移動等	毎年	上永谷修繕工場
作業台付蓄電池車	-	4台	重要部・全般保全検査等	毎年	上永谷修繕工場

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

労働安全衛生規則第151条の24(フォークリフトの特定自主検査)及び194条の26(作業台付蓄電池車の特定自主検査) 1年以内毎に1回、検査を行わなければならない。

労働安全衛生法第45条の2

自主検査を行う際は、資格を有するもの又は登録を受けたものを実施させなければならない。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款：02 高速鉄道事業費	項：01 営業費用	目：30 車両保存費	所属：車両課(計画)	
節・細節：39 その他修繕費			担当者：吉田(和)	

(単位：千円)

【事業内容】	2年度予算額
6 架空集電装置定期検査事業	

(1) 事業目的・内容)

上永谷検車区(2基)、修繕工場(1基)及び新羽検車区(2基)の架空集電装置は、第三軌条の設備が無い検修庫内での車両整備で車両用動力電源として使用しています。
各架空集電装置の性能、安全性及び寿命を維持する目的で、省令で定められた定期検査を行います。



(架空集電装置)

定期点検案件

点検周期表に基づき点検を実施します。

名称	型式等	数量	使用用途	点検周期	設置場所
架空集電装置	-	2基	車両電源供給	毎年	上永谷検車区
	-	1基	車両電源供給	毎年	上永谷修繕工場
	-	2基	車両電源供給	毎年	新羽検車区

(2) 前年度から変更・見直した点)

(3) 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令第90条の2
施設及び車両の定期検査に関する告示第3条(電力設備の定期検査)
1年以内毎に1回、定期に検査を行わなければならない。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)

(単位:千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
7 一般工作機械保守委託事業	

(1) 事業目的・内容

上永谷修繕工場に設備されている一般工作機械は、車両の定期検査及び修繕に使用している機器になります。これらの機器は車両部品の脱着や機械的強度特性の評価判定に使用しています。各工作機械の性能、安全性及び寿命を維持する目的で、省令で定められた定期検査を行います。



(スケヤーシャー)

定期点検案件

点検周期表に基づき点検を実施します。

名称	型式等	数量	使用用途	点検周期	設置場所	R1年度点検	R2年度点検
スケヤーシャー	N-1504	1台	鋼板・アルミ・ステンレス等の板材の切断	毎年	上永谷修繕工場	○	○
油圧プレス	BC-25	1台	材料加工(曲げ、圧縮、圧脱、圧入等)	毎年	上永谷修繕工場	○	○
パネ試験機	RUE-200	1台	地下鉄車両の鋼材等の機械的強度(引っ張り、曲げ試験)特性の評価判定	毎年	上永谷修繕工場	○	○
スクリュー コンプレッサー	HM-22ADIH型	2台	空圧機械や工具用の圧縮空気を作り出す 機械の定期自主検査	4年 (前回H27)	上永谷検車区	○	-
	HM-22ADIH型	2台			新羽検車区	○	-

(2) 前年度から変更・見直した点

(3) 根拠法令・規程、現場の意見等

スケヤーシャー 労働安全衛生法第45条の1(定期自主検査)
事業者は、定期に自主検査を行ない、その結果を記録しておかなければならない。
労働安全衛生法施行令第15条の2(定期に自主検査を行うべき機械等)
労働安全衛生規則第135条(定期自主検査)
事業者は、1年以内毎に1回、定期に自主検査を行なわなければならない。

パネ試験機 JIS-B-7721引張試験器第11項
事業者は、1年以内毎に1回、検査・校正を行なわなければならない。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(計画)	
節・細節: 39 その他修繕費			担当者: 吉田(和)	

(単位:千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
8 3000形列車無線携帯・簡易試験器保守委託事業	

(1) 事業目的・内容)

上永谷車両基地及び新羽車両基地にある列車無線装置試験機は、列車検査、月検査及び重要部・全般保全検査に使用しています。
この装置の性能、安全性及び寿命を維持する目的で、毎年メンテナンスを行います。



列車無線装置試験器

定期点検案件

名称	型式等	数量	使用用途	点検周期	設置場所
列車無線携帯試験器	VX366 A011278-1	1台	重要部・全般保全検査、故障分析等	毎年 (前回H30)	上永谷検車区
	A011278-2	1台			新羽検車区
列車無線簡易試験器	VX367 A011278-1	1台	重要部・全般保全検査、故障分析等	毎年 (前回H30)	上永谷検車区
	A011278-2	1台			新羽検車区

(2) 前年度から変更・見直した点)

従来は、6年に1回の保守としていたが、試験機の信頼性を向上させるために、H31より毎年点検とする。

(3) 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予算科目			担当
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(計画)
節・細節: 39 その他修繕費			担当者: 吉田(和)

(単位:千円)

【事業内容】	2年度予算額
--------	--------

9 新羽車両基地車輪転削盤保守委託事業

(1) 事業目的・内容)

新羽検車区に設備されている車輪転削盤は、車両の走行により摩耗する車輪の形状を正規の形状に削正するもので、定期的に削正することにより車輪形状の管理をしています。

本装置は、平成28年に施工完了した装置になります。

車輪形状の管理に支障が出ないよう、装置の性能、安全性及び寿命を維持する目的で、年次点検を行います。

また、本装置の3ヶ月、6ヶ月点検についても専門性が高く、直営での管理が困難であるため、委託して実施するようようにします。



新羽車両基地 車輪転削盤

(2) 前年度から変更・見直した点)

(3) 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位:千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
----------	--------

10 運用管理システムウイルスソフトパターンファイル更新

(1 事業目的・内容)

運用管理システムは、車両の毎日の動き(運用)や検査、清掃等の作業計画を立てたり、基地のPRC(基地信号システム)に送信し、基地内の配車計画にも使用していますが、作業効率の悪い従来品を平成28年度に新規設計し、今年度にかけて更新しております。更新後の運用管理システムは従来品と異なり、交通局内ネットワークに組み込まれたサーバクライアントとして設計したため、ウイルス対策ソフトをインストールしております。

ウイルスソフトは、日々発生する新しいウイルスを迅速に発見するために、パターンファイル(ウイルスの特徴を記したデータベースのようなもの)を保有しています。パターンファイルは通常、外部ネットワーク経由で随時更新されるように設定しますが、本システムが接続されているネットワークは、セキュリティ対策のためインターネットに接続不可能な閉じたネットワークとなっております。そのため、パターンファイルを更新するには、本システムのサーバに手動でインストールを行う必要があります。

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予算科目			担当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(計画)	
節・細節: 39 その他修繕費			担当者: 吉田(和)	

(単位:千円)

【事業内容】	2年度予算額
--------	--------

11 新羽車両基地教習線復旧

(1 事業目的・内容)

下飯田駅にて発生した脱線事故の復旧のための緊急対応として、新羽車両基地教習線に敷設されていた軌道部材・サードレール部材を使用したため、これらを元の状態に復旧するものです。

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令及び検査告示(第5条)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 39 その他修繕費	項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 所属: 車両課(計画) 担当者: 吉田(和)

(単位:千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
12 その他修理事業	6,938

(1) 事業目的・内容)

上永谷車両基地及び新羽車両基地に設置している設備の不具合箇所の修理対応を行います。
車両基地の設備等は、列車検査、月検査及び重要部・全般保全検査で使用しています。機器類が故障し機能を停止した場合、各検査の工程に支障をきたす恐れがあることから迅速な修理対応が必要となります。

(2) 前年度から変更・見直した点)

平成26年度～平成30年度の契約実績の平均値を根拠として積算を行いました。

年度	契約実績(税込)
平成28年度	5,161
平成29年度	2,304
平成30年度	12,966

年度	予算要求(税込)
令和2年度	6,938

税率10%

平均値(小数点第一位切上げ)(税込)

$(5,161+2,304+12,966) \div 3=6,811$

税抜き金額

$6,811 \div 1.08=6,307$

(3) 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令及び検査告示(第5条)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予算科目	担当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 山田、中嶋

(単位:千円)

	2年度 A	元年度 B	増△減(A-B)
予算額	27,429	22,296	5,133

	ブルーライン
○	グリーンライン
	共通

(単位:千円)

【事業内容】	2年度予算額												
1 材料調達事業	789												
(1 事業目的・内容) 川和車両基地に設置している、車体洗浄装置や車両管理システム等の車両検修設備に使用する交換部品及び消耗品を購入します。													
(2 前年度から変更・見直した点) 過去3年間(平成28年から平成30年)の契約実績金額の平均値を計上。													
(単位:千円)													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>契約実績(税抜)</th> <th>実績平均(税抜)</th> <th>予算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年度</td> <td>670</td> <td rowspan="3">717</td> <td rowspan="3">789</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>362</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>1118</td> </tr> </tbody> </table>		年度	契約実績(税抜)	実績平均(税抜)	予算額	平成28年度	670	717	789	平成29年度	362	平成30年度	1118
年度	契約実績(税抜)	実績平均(税抜)	予算額										
平成28年度	670	717	789										
平成29年度	362												
平成30年度	1118												
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)													

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 39 その他修繕費	項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 所属: 車両課(技術) 担当者: 山田、中嶋

(単位:千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
2 車両検修設備保守委託事業	

(1 事業目的・内容)

川和車両基地に設置している車両検修設備は車両の各種検査に使用しています。
各種検修設備の性能、安全性及び寿命を維持するため、設備毎に点検周期を定め、計画的に点検及び保守作業を実施しています。

(2 前年度から変更・見直した点)

- ・各種設備の点検周期に基づき下記表のとおり点検を実施します。
- ・各種装置の単価は実績金額により積算しました。

設備名称	点検周期	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
LIMギャップ測定装置		○	○	○		
車両輪重測定装置		○	○	○		
車体自動洗浄装置		-	○	-		
気吹き集じん装置		-	-	○		
台車抜取装置		-	-	○		
脱線復旧装置		○	○	-		
電動前面洗浄台		-	○	-		
車輪転削盤		○	-	○		

<内訳>

(単位:千円)

対象設備	金額
LIMギャップ測定装置	
車両輪重測定装置	
気吹き集じん装置	
台車抜取装置	
車輪転削盤	
計	

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

車両輪重測定装置

横浜市高速鉄道車両整備実施基準第14条(静止輪重の管理)
輪重比管理を適正に行うため、輪重測定装置の校正を定期的(毎年)行う必要がある。

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目		担 当
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費
節・細節: 39 その他修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 山田、中嶋	

(単位:千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
<p>3 車両移動機保守委託事業</p> <p>(1 事業目的・内容)</p> <p>川和車両基地に設置している車両移動機は車輪の転削作業等で車両を移動する際に使用しております。 車両移動機の性能、安全性及び寿命を維持するため、法令で定められた定期自主検査を行います。 ※検査周期: 毎年</p>  <p>30DR-2ST: 車両移動機</p> <p>(2 前年度から変更・見直した点)</p> <p>(3 根拠法令・規程、現場の意見等)</p> <p>車両移動機 労働安全衛生規則第二百二十九条(定期自主検査) 事業者は、電気機関車等については、一年以内ごとに一回、定期に、自主検査を行わなければならない。</p>	

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 39 その他修繕費	項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 所属: 車両課(技術) 担当者: 山田、中嶋

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額															
4 クレーン定期自主検査事業																
<p>(1 事業目的・内容)</p> <p>川和車両基地に設置しているクレーンは、車両検査時に車体や車両部品等を運搬するために使用しています。各種クレーンの性能、安全性及び寿命を維持するため、法令で定められた定期自主検査を行います。</p> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th>対象設備</th> <th>型式等</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>天井クレーン</td> <td>12t</td> <td>2基</td> </tr> <tr> <td>天井クレーン</td> <td>1t</td> <td>1基</td> </tr> <tr> <td>橋形クレーン</td> <td>2.8t</td> <td>1基</td> </tr> <tr> <td>スタッカークレーン</td> <td>2.6t</td> <td>1基</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2 前年度から変更・見直した点)</p> <p>(3 根拠法令・規程、現場の意見等)</p> <p>労働安全衛生法第45号の1、同法施行令第15条、クレーン等安全規則第34条(定期自主検査) 1年以内に1回、また、1ヶ月以内ごとに1回、検査を行わなければならない。</p>		対象設備	型式等	数量	天井クレーン	12t	2基	天井クレーン	1t	1基	橋形クレーン	2.8t	1基	スタッカークレーン	2.6t	1基
対象設備	型式等	数量														
天井クレーン	12t	2基														
天井クレーン	1t	1基														
橋形クレーン	2.8t	1基														
スタッカークレーン	2.6t	1基														

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 山田、中嶋
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額															
5 フォークリフト等特定自主検査事業																
<p>(1 事業目的・内容)</p> <p>川和車両基地で使用しているフォークリフト及び高所作業車等は、重量が大きな部品の運搬や、車両の車両屋根上を検査する際に使用します。各フォークリフト及び高所作業車の性能、安全性及び寿命を維持するため、法令で定められた特定自主検査を行います。</p> <p>※検査周期: 毎年</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>対象設備</th> <th>型式等</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>バッテリーフォークリフト</td> <td>1.5t</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>バッテリーフォークリフト</td> <td>3.0t</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>高所作業車</td> <td>0.41t</td> <td>2台</td> </tr> <tr> <td>バッテリー式運搬車</td> <td>1.0t</td> <td>1台</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2 前年度から変更・見直した点)</p> <p>令和元年度契約が未執行のため、平成30年度の契約実績から積算しました。</p> <p>(3 根拠法令・規程、現場の意見等)</p> <p>労働安全衛生規則第151条の24(フォークリフトの特定自主検査)及び194条の26(作業台付蓄電池車の特定自主検査) 1年以内ごとに1回、検査を行わなければならない。</p>		対象設備	型式等	数量	バッテリーフォークリフト	1.5t	1台	バッテリーフォークリフト	3.0t	1台	高所作業車	0.41t	2台	バッテリー式運搬車	1.0t	1台
対象設備	型式等	数量														
バッテリーフォークリフト	1.5t	1台														
バッテリーフォークリフト	3.0t	1台														
高所作業車	0.41t	2台														
バッテリー式運搬車	1.0t	1台														

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術)	
節・細節: 39 その他修繕費			担当者: 山田、中嶋	

(単位:千円)

【 事業内容 】	2年度予算額
----------	--------

6 車両管理システムアンチウイルスソフト更新事業

(1 事業目的・内容)

川和車両基地に設置してある車両管理システムは、車両管理の総合システムとして、運用管理、検修設備管理、資材管理、図面管理等を行っております。本システムはサーバークライアント方式で、サーバー、クライアント(端末)の合計19台からなるネットワークとなっております。これらが、コンピュータウイルスに感染した場合、ネットワークでつながったすべてのコンピュータにウイルスが感染し、サーバーに深刻なダメージを与え、場合によっては、復旧不可能となる恐れがあります。
ウイルス感染を防ぐため、アンチウイルスソフトウェアの更新(毎月)を行います。

(2 前年度から変更・見直した点)

・令和元年度実施内容と仕様変更が無いため、令和元年度の予算額から積算しています。

年度	契約実績(税込)
平成29年度	1,242
平成30年度	1,319
令和元年度	1,319

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 山田、中嶋
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	2年度予算額												
7 その他修理事業	3,580												
<p>(1 事業目的・内容)</p> <p>川和車両基地に設置している車両検修設備及びコンプレッサー等、車両整備に使用する機器で発生した不具合箇所の修理を行います。車両検修設備等は各種検査(全般、重要部、列車、月)で使用しております。機器類が故障し、その機能が損なわれた場合、各検査工程に支障をきたす恐れがあるため、迅速な修理を実施する必要があります。</p> <p>(2 前年度から変更・見直した点)</p> <p>過去3年間(平成28年から平成30年)の契約実績金額の平均値を予算額に採用しました。</p> <p style="text-align: right;">(単位:千円)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>契約実績(税抜)</th> <th>実績平均(税抜)</th> <th>予算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年度</td> <td style="text-align: center;">2,480</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">3,254</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">3,580</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td style="text-align: center;">4,171</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td style="text-align: center;">3,110</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3 根拠法令・規程、現場の意見等)</p>		年度	契約実績(税抜)	実績平均(税抜)	予算額	平成28年度	2,480	3,254	3,580	平成29年度	4,171	平成30年度	3,110
年度	契約実績(税抜)	実績平均(税抜)	予算額										
平成28年度	2,480	3,254	3,580										
平成29年度	4,171												
平成30年度	3,110												

令和2年度 修繕費 事業計画書

予算科目			担当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 上永谷保守管理所	
節・細節: 39 その他修繕費			担当者: 平塚、坪井	

(単位: 千円)

	2年度 A	元年度 B	増△減(A-B)
予算額		298	

<input type="radio"/>	ブルーライン
<input type="radio"/>	グリーンライン
<input type="radio"/>	共通

(単位: 千円)

【事業内容】	2年度予算額
1 上永谷検車区庁用車 材料費	30
(1 事業目的・内容)	
<p>庁用車の部品を購入する費用。</p>	
(2 前年度から変更・見直した点)	
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)	

令和2年度 修繕費 事業計画書

予算科目	担当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 上永谷保守管理所 担当者: 平塚、坪井

(単位:千円)

【事業内容】	2年度予算額
2 上永谷検車区庁用車 車検・法定点検	
(1 事業目的・内容) 応急車及び庁用車の法令に基づく車両検査を行うものです。 ・国土交通省令に基づく点検 車検及び法定点検 1台(応急車1台)	
(2 前年度から変更・見直した点)	
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)	

令和2年度 修繕費 事業計画書

予算科目	担当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 上永谷保守管理所 担当者: 平塚、坪井

(単位:千円)

【事業内容】	2年度予算額
3 上永谷検車区庁用車 修理費	10
(1 事業目的・内容) 庁用車を修理する費用。	
(2 前年度から変更・見直した点)	
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)	

令和2年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 39 その他修繕費	項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 所属: 新羽保守管理所 担当者: 本間

(単位:千円)

	2年度A	元年度B	増減(A-B)
予 算 額		239	

<input type="radio"/>	ブルーライン
<input type="radio"/>	グリーンライン
<input type="radio"/>	共通

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】		2年度予算額
1	自動車点検整備 検車区	30
(1 事業目的・内容)		
	緊急の自動車整備に必要な部品・材料を購入するための新羽保守管理所長に前渡する資金	30
(2 前年度から変更・見直した点)		
	金額をH30と同額に変更	
(3 根拠法令・規程、「現場の意見」等)		
	前渡資金があれば、速やかに部品・材料を購入し修繕作業を行える	

令和2年度 修繕費 事業計画書

予算科目 款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 39 その他修繕費			担当 所属: 新羽保守管理所 担当者: 本間
---	--	--	------------------------------

(単位:千円)

【事業内容】 2 自動車点検整備 検車区	2年度予算額												
(1 事業目的・内容) 応急車の法令に基づく車両検査を行うものです。 国土交通省令に基づく点検													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>車名</th> <th>車検周期</th> <th>6ヶ月点検</th> <th>12ヶ月点検</th> <th>車検</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キャンター 800つ579</td> <td>1年</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		車名	車検周期	6ヶ月点検	12ヶ月点検	車検	計	キャンター 800つ579	1年				
車名	車検周期	6ヶ月点検	12ヶ月点検	車検	計								
キャンター 800つ579	1年												
(2 前年度から変更・見直した点)													
(3 根拠法令・規程、「現場の意見」等) 応急車点検整備＝道路運送車両法(第62条)に基づく継続検査													

令和2年度 修繕費 事業計画書

予算科目 款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 39 その他修繕費		担当 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 付記: 22 外注費		所属: 新羽保守管理所 担当者: 本間
--	--	---	--	------------------------

(単位:千円)

【事業内容】		2年度予算額						
3 自動車修理 検車区		50						
(1 事業目的・内容)								
<table border="1"> <tr> <td>自動車修理</td> <td></td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>自動車修理</td> <td>随時</td> <td>50</td> </tr> </table>		自動車修理		計	自動車修理	随時	50	
自動車修理		計						
自動車修理	随時	50						
(2 前年度から変更・見直した点)								
(3 根拠法令・規程、「現場の意見」等)								

令和2年度 修繕費 事業計画書

予算科目			担当
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 川和保守管理所
節・細節: 39 その他修繕費			担当者: 今野・阿部

(単位: 千円)

	2年度 A	元年度 B	増△減(A-B)
予算額	290	281	9

	ブルーライン
○	グリーンライン
	共通

(単位: 千円)

【事業内容】	2年度予算額
1 その他修繕 部品材料	30
(1 事業目的・内容)	
緊急のその他修繕に必要な部品・材料を購入するための小額物品費	
(2 前年度から変更・見直した点)	
なし	
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)	
局の小額物品制度による	

令和2年度 修繕費 事業計画書

予算科目	担当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 川和保守管理所 担当者: 今野・阿部

(単位:千円)

【事業内容】	2年度予算額
2 自動車点検整備・修理	260
(1 事業目的・内容)	
庁用車について、法令に基づく車両検査や法定点検の実施及び故障修理に必要な費用	
保有庁用車 ・デュトロ(800せ5623)	
(2 前年度から変更・見直した点)	
なし	
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)	

令和2年度 経費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用	所 属: 車両課(計画)
目: 30 車両保存費	担 当 者 名: 吉田(和)

(単位: 千円)

	2年度 A	元年度 B	増△減 A - B		
予算額	287,367	77,853	209,514	○	ブルーライン
					グリーンライン
					共通

【積算内容】

(1 科目別積算内容)

節別科目名	積 算 額	積 算 項 目
41 資産減耗費		3000形車両廃車業務委託事業
49 備用品費	690	防菌防藻剤、空調用添加剤
51 光熱水費	1,926	水道料金、ガス料金
56 旅費	528	1人当たり1か月@4,000-職員11名分
57 通信運搬費	120	電話回線使用料1か月当たり@10,000円(修繕・教育担当)
63 委託料	230,886	車両清掃、建物清掃、新羽車両清掃、環境調査、産業廃棄物処理、台車洗浄 装置等廃液回収清掃、車内デジタルサイネージ装置地上システム運用管理等
64 手数料	199	クレーン性能検査、鉄道技術基準
65 賃借料		複写サービス
合 計	287,367	

(2 編成するにあたっての考え方)

(3 新規項目・主要事業等)

令和2年度 経費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用 目：30 車両保存費	所属： 上永谷保守管理所 担当者名： 江田 坪井 平塚

(単位:千円)

	2年度 A	元年度 B	増△減 A - B
予算額	14,417	15,031	△ 614

○	ブルーライン
	グリーンライン
	共通

【積算内容】

(1 科目別積算内容)

節別科目名	積 算 額	積 算 項 目
42 油脂系屑費	1,134	検査用油脂類、ウエス
45 自動車燃料費	204	緊急自動車用ガソリン
49 備用品費	1,365	共通・小額物品、テキスト代、作業用雑貨・新採用備品、雪害対策用備品等
51 光熱水費	8,651	ガス料金、上・下水道料金
56 旅費	284	定例出張旅費、各種技能・資格講習旅費
57 通信運搬費	123	電話料金、切手代
63 委託料	1,700	事務所清掃費、産業廃棄物処分費
64 手数料	452	各種技能・資格講習費、印紙代
65 賃借料	338	寝具賃借料、複写サービス
68 保険料	101	緊急自動車任意保険料、自賠責保険料
73 自動車重量税	29	緊急自動車自動車重量税
96 雑費	36	有料駐車場代
合 計	14,417	

(2 編成するにあたっての考え方)

(3 新規項目・主要事業等)

令和2年度 経費 事業計画書

予 算 科 目	担当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用	所属：新羽保守管理所
目：30 車両保存費	担当者名：本間

(単位:千円)

	2年度 A	元年度 B	増△減 A - B		
予算額	10,069	10,376	△ 307	○	ブルーライン
					グリーンライン
					共通

【積算内容】

(1 科目別積算内容)

節別科目名	積 算 額	積 算 項 目
42 油脂糸屑費	1,127	オイル・グリス類、タオルウエス、軽油、灯油
45 自動車燃料費		庁用車用ガソリン
49 備用品費	2,401	小額物品、事務及び作業用備品、消耗品、工具類
51 光熱水費	2,258	ガス・上下水道使用料金
56 旅費	220	市外・市内出張、各種講習・研修、立会検査等出張旅費
57 通信運搬費	63	電話料金、切手代
63 委託料	3,140	建物清掃、産業廃棄物処理委託
64 手数料	572	各種講習・研修受講料、庁用車車検印紙代
65 賃借料		複写サービス
68 保険料	101	庁用車自賠責・任意保険料
73 自動車重量税	13	庁用車重量税
96 雑費	5	有料駐車場利用料
合 計	10,069	

(2 編成するにあたっての考え方)

(3 新規項目・主要事業等)

